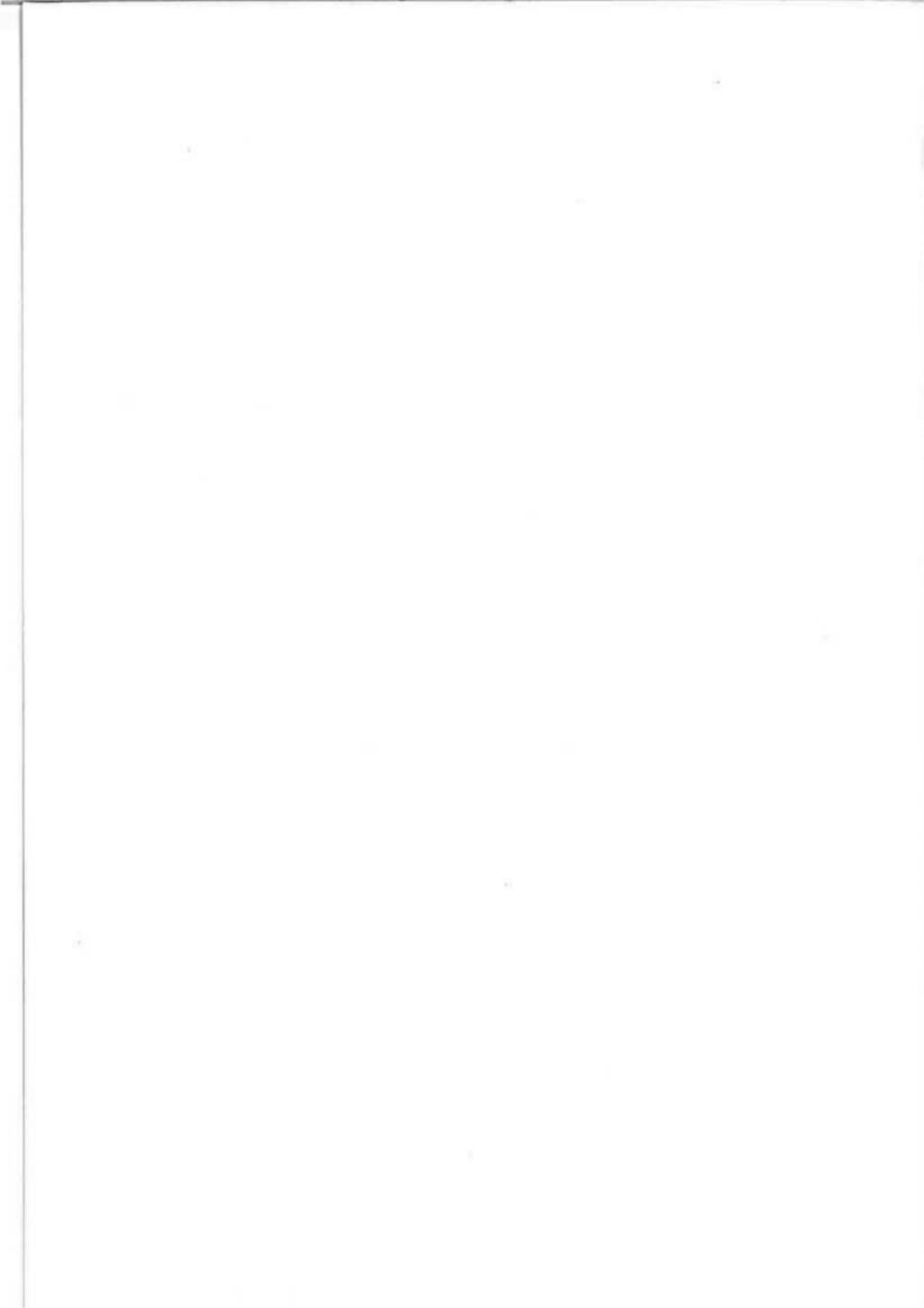


有明町文化財調査報告書 第13集

ひがし たか の  
東 鷹 野 遺 跡

2001

長崎県有明町教育委員会

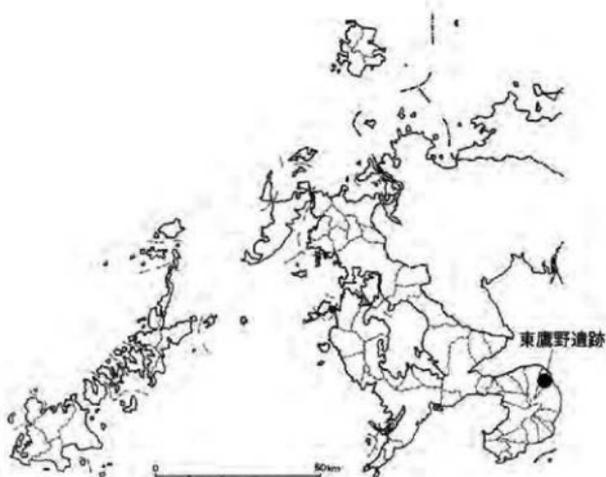






有明町文化財調査報告書 第13集

ひがし たか の  
**東鷹野遺跡**

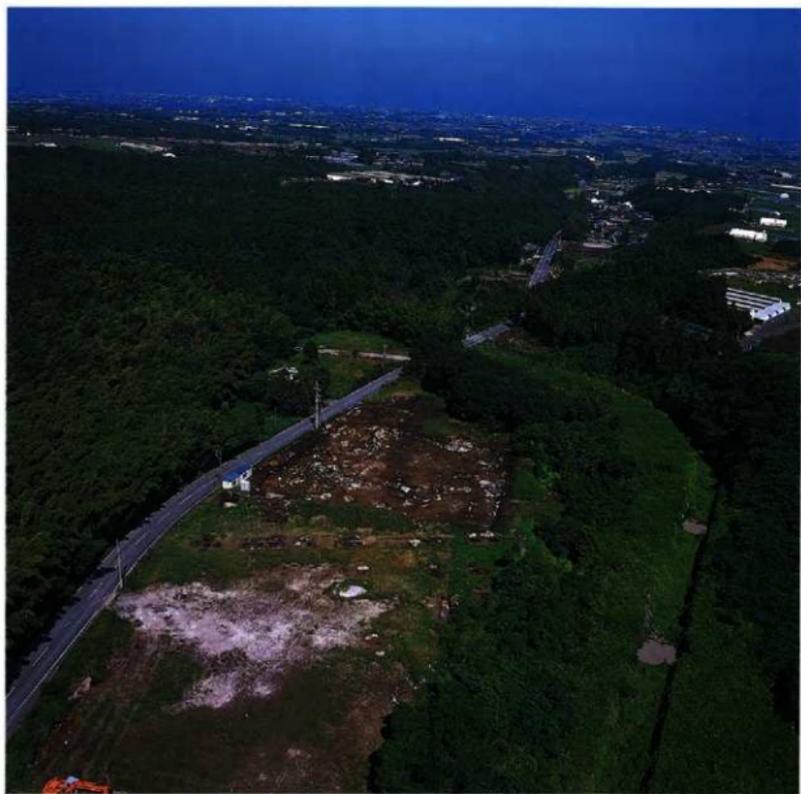






遺跡全体写真（北から）正面は普賢岳





遺跡遺景（南から）





遺跡近景



## 発刊にあたって

この報告書は、有明町教育委員会が建設省九州地方建設局雲仙復興工事事務所の委託を請けて平成12年7月17日から平成12年10月12日にかけて実施した東鷹野遺跡の発掘調査の記録です。

有明町には、大野原遺跡をはじめ数多くの遺跡が知られていますが、東鷹野遺跡は未発見の遺跡であり砂防ダム建設工事の途中で偶然発見されましたが、関係者の埋蔵文化財に対する御理解により発掘調査を実施することができました。

今回の調査では縄文時代の数多くの遺物や遺構が確認され、有明町の歴史に新たな頁を加えることができました。

各種の文化財は貴重な財産であり、後世に伝えることは私たちの責務であります。

本書が文化財保護行政及び学問の進展に寄与することができれば幸に存じます。

最後に、調査を担当いただいた長崎県文化課の先生方、ご協力をいただいた関係者の皆さまに、深い敬意と謝意を表して、発刊のことばにかえさせていただきます。

平成13年3月30日

有明町教育長 宮川 武 利

## 例 言

1. 本書は平成12年度に実施した長崎県南高来郡有明町字東鷹野に所在する東鷹野（ひがしたかの）遺跡の緊急発掘調査の報告書である。
2. 調査は有明町教育委員会が主体となり、長崎県教育庁文化課が協力した。調査は範囲確認調査を平成12年5月8日～5月12日まで、本調査を同年7月17日～10月12日まで実施した。
3. 遺構の実測は佛理蔵文化財サポートシステムの協力をえた。
4. 遺物の実測は石器を福田一志が、土器を古門雅高がおこなった。
5. 調査中の写真はそれぞれの調査担当者が撮影し、遺物写真は福田・古門が担当した。
6. 図面のトレースは斉藤いづみ、渡邊洋子の協力をえた。
7. 遺跡の空撮は佛理蔵文化財サポートシステムがおこなった。
8. 本書における遺物・図面・写真などは有明町教育委員会で保管している。
9. 本書の執筆は、宇土靖之、福田、渡邊康行、古門がおこなった。それぞれの分担は目次に示した。
10. 本書の編集は古門による。

# 目 次

第I章 地理的・歴史的環境	1 (宇土)
第II章 調査に至る経緯	7 (宇土)
第III章 調査組織	8 (宇土)
第IV章 範囲確認調査の概要	9 (古門)
第V章 本調査の概要	
第1節 調査の方法	13 (古門)
第2節 土層 上部層	15 (古門)
下部層	15 (渡辺)
第3節 遺構	21
1. 割石廃棄土坑	22 (福田)
2. ビット	42 (古門)
第4節 遺物	
(1) 石器	50 (福田)
(2) 鉄製品	50 (福田)
(3) 土器	54 (古門)
(4) 自然科学分析	58 (宇土)
第VI章 ま と め	60 (古門)

## 挿 図 目 次

第1図	東鷹野遺跡位置図① (S = 1/25,000) .....	3
第2図	東鷹野遺跡周辺の縄文時代遺跡 (S = 1/25,000) .....	4
第3図	東鷹野遺跡位置図② (S = 1/5,000) .....	5
第4図	東鷹野遺跡周辺地形図 (S = 1/1,000) .....	6
第5図	東鷹野遺跡北区範囲確認調査平面図 (1/500) .....	10
第6図	東鷹野遺跡グリッド図 (S = 1/500) .....	13
第7図	東鷹野遺跡調査区旧地形図 (S = 1/400) .....	14
第8図	東鷹野遺跡土層図① (S = 1/100) .....	17
第9図	東鷹野遺跡土層図② (S = 1/20) .....	19
第10図	東鷹野遺跡遺構配置図 (S = 1/400) .....	21
第11図	第101号, 第750号遺構 (割石廃棄土坑) 平面実測図 (S = 1/40) .....	22
第12図	第183号遺構 (割石廃棄土坑) 実測図 (S = 1/40) .....	24
第13図	第540号, 第541号, 第542号遺構 (割石廃棄土坑) 平面実測図 (S = 1/50) .....	27
第14図	第667号遺構 (割石廃棄土坑) 平面実測図 (S = 1/40) 及び廃棄模式図 .....	30
第15図	第752号遺構 (割石廃棄土坑) 実測図 (S = 1/40) .....	33
第16図	第932号, 第933号, 第934号遺構 (割石廃棄土坑) 平面実測図 (S = 1/60) .....	36
第17図	第935号遺構 (割石廃棄土坑) 平面実測図 (S = 1/60) .....	37
第18図	第938号遺構 (割石廃棄土坑) 平面実測図 (S = 1/60) .....	38
第19図	第939号遺構 (割石廃棄土坑) 平面実測図 (S = 1/60) .....	39
第20図	第940号遺構 (割石廃棄土坑) 実測図 (S = 1/50) .....	40
第21図	第941号, 第942号遺構 (割石廃棄土坑) 実測図 (S = 1/50) .....	40
第22図	第251号, 第252号, 第253号, 第260号遺構実測図 (S = 1/40) .....	42
第23図	第445号, 第516号, 第519号遺構実測図 (S = 1/40) .....	43
第24図	第534号, 第874号遺構実測図 (S = 1/40) .....	43
第25図	第578号, 第617号, 第622号遺構実測図 (S = 1/40) .....	44
第26図	第578号, 第631号, 第632号遺構実測図 (S = 1/40) .....	45
第27図	剥片石器実測図 (S = 2/3) .....	51
第28図	礫石器実測図① (1/3) .....	52
第29図	礫石器実測図②, 鉄製品実測図 (S = 1/3) .....	53
第30図	縄文土器実測図① (S = 1/3) .....	55
第31図	縄文土器実測図② (S = 1/3) .....	56
第32図	縄文土器実測図③ (S = 1/3) .....	57

## 图 版 目 次

图版 1—A	土层下層部	20
图版 1—B	第101号, 第750号遺構 (割石廃棄土坑)	23
图版 2	第183号遺構 (割石廃棄土坑)	25
图版 3	第531号遺構 (割石遺構)	26
图版 4	第540号, 第541号, 第542号遺構 (割石廃棄土坑) 檢出状況	27
图版 5	第540号, 第541号, 第542号遺構 (割石廃棄土坑)	28
图版 6	第543号遺構 (割石廃棄土坑)	29
图版 7	第644号遺構 (割石廃棄土坑) (右)	29
图版 8	第667号遺構 (割石廃棄土坑)	31
图版 9	第677号遺構 (割石廃棄土坑)	32
图版10	第751号遺構 (割石廃棄土坑) (左)	32
图版11	第752号遺構 (割石廃棄土坑)	34
图版12	第774号遺構 (割石廃棄土坑)	35
图版13	第932号, 第933号, 第934号遺構	35
图版14	第935号遺構 (割石廃棄土坑)	37
图版15	第938号遺構	38
图版16	第940号遺構	41
图版17	第251号, 第252号, 第253号, 第260号遺構	42
图版18	第445号, 第516号, 第519号遺構	43
图版19	第534号, 第874号遺構	44
图版20	第578号, 第617号, 第622号遺構	44
图版21	第578号, 第631号, 第632号遺構	45
图版22	礫石器①	63
图版23	礫石器②, 鉄製品	64
图版24	土器①	65
图版25	土器②	66
图版26	土器③	67

## 表 目 次

表 1	遺構一覽表①	46
表 2	遺構一覽表②	47
表 3	遺構一覽表③	48
表 4	遺構一覽表④	49



## 第Ⅰ章 地理的・歴史的環境

### 第1節 地理的環境

有明町の位置する島原半島は、長崎県南東部に明海と橘湾に胃袋状につきだした半島である。

半島の規模は、東西24km、南北32km、面積463km<sup>2</sup>で、中央部は雲仙岳を中心とした国立公園であり、海岸線一帯は島原半島県立自然公園となっている。地質・地形的には北部の雲仙火山地域と南部の南島原火山地域に大別でき、半島の4分の3を占める雲仙火山地域は、平成2年の普賢岳の噴火によりできた平成新山(1,489m)を主峰とする雲仙火山群の溶岩円頂丘を中央とし、標高300~400mを扇頂部として北部、東部、南東部に火山性扇状地が発達し裾野は有明海にのびる。南部の南島原火山地域は、第3紀層を安山岩や玄武岩を主体とする溶岩が覆う火山性台地で、起伏に富む地形をなしている。海岸線の総延長は130kmであり、半島内の主要道路はほとんどが海岸線沿いを走り、鉄道(島原鉄道)も千々石・小浜・南串山町をのぞき海岸線に沿って走る。近年は、主要道路の複線とする農道(グリーンロード)の敷設が進み、雲野町から島原市までの路線はほぼ完成している。また高規格道路の敷設も計画されている。現行の行政区画では、雲仙岳を中心として放射状に1市16町に分かれているが、平成17年を目途に合併が行われる予定である。

有明町は、この島原半島北東部に位置する。地勢は、先述したように火山性扇状地であり、雲仙火山群を構成する舞岳(702m)を頂点とし、町域を北東方向に扇状に展開し、緩やかな傾斜で有明海に臨む。海岸線は5.9km、南北9.8km、面積23.48km<sup>2</sup>、人口は12,340人(平成11年10月1日現在)で西は国見町、南は島原市に接し、農業と漁業が主産業である。舞岳を水源とする数条の河川は湯江川を除けば小河川であり、水田はこれら河川の流域に沿って分布するが流域面積は貧弱で豊かな扇状地を形成できず、水田面積は狭小である。台地上の耕作地についても水利が悪く地下水を汲み上げて対処しても畑作を営むのが限界であるが、黒ボクと呼ばれる土壌は畑作には適しており県内有数の畑作地帯となっている。また、漁業では地元で有明ガネと呼ばれるかに漁と、遠浅の海岸を利用した海苔養殖が盛んであり、冬から春にかけては海岸線のほぼ全域に海苔養殖のコンボーズが立ち並ぶ。

東鷹野遺跡は、標高190~200m付近の湯江川沿いの狭小な谷底平野に位置し、湯江川・町道により南北方向に分断されるが、南北350m、東西200mがその範囲で主体は西側の台地上と考えらる。

現状はダム建設による用地買収の為、荒蕪地となっているが、かつては畑地でありブドウ・茶等の栽培が行われていた。

付近には、東側の台地上に一本松遺跡が隣接し、西に百花台遺跡、南に礫石原遺跡が知られる。

### 第2節 歴史的環境

長崎県遺跡地図には、町内の38遺跡が掲載されている。時代別では縄文19、弥生7、古墳13、古代(奈良)2、中世4となっている(重複あり)が、総じて時代的には重複する遺跡が多く、大野原遺跡などは当初弥生時代の遺跡とされていたものが、平成3年の町民プール建設に伴う調査では7~8

世紀の須恵器などが多数出土し、平成9年の文化会館建設に伴う調査では縄文時代が主体ではあるが、遺物的には弥生から古代のものが確認され、縄文～古代までの複合遺跡といえる。

遺跡地図には旧石器時代の遺跡がないが、国見町の百花台・魚洗川遺跡と隣接する地域には存在する可能性がある。縄文時代については、近年、先述の大野原遺跡の調査が行われている。平成9年に総合文化会館建設に伴う発掘調査、平成10年に総合福祉センターに伴う発掘調査が行われ、平成9年の発掘調査では、縄文後期の三万田式の土器が多量に出土し、良好な資料が得られている（報告書未刊行）。ほかに小原下遺跡、中田遺跡などが知られ、百人委員会、有明町教育委員会などにより発掘調査が行われている。弥生時代の遺跡については、一野遺跡・大野原遺跡などで石棺・壺棺などが発見されている、また妙法塚遺跡では壺棺が出土している。生活跡とよべる遺構についてはあまり知られていないが、平成3年の調査では隅丸方形の住居址が2軒確認されている。町内においては、すでに宅地となっている場所が比較的標高が低い台地上に集中している。このことが弥生時代の生活跡が発見できない要因にもなっていると思われる。

古墳時代についてであるが、高塚古墳としては平山古墳が知られる。墳丘はかろうじて存在し、玄室と前室の一部が残る。先述の妙法塚遺跡では工事の途中で石棺が発見され、鉄鏃と被葬者の骨が出土している。周囲ではかつて土器や装飾品が採集できたとのことであり、また平家の落武者が葬られている等の話もあり、地元の人は漠然とはあるが墓域であろうという認識を持っているようだ。その他、口伝として古墳といわれるものも多い。古代については松尾遺跡から、土壌や貝類のつまった柱穴とともに8世紀を中心とする土師器・須恵器などが出土し、大野原七反畑遺跡では8世紀前後の廃棄遺構が確認されている。中世については大野城跡が知られる。現在有明中学校・宅地によりその大半が占められているが、付近の道路は縦横に整然と配置され当時を忍ばせる。龍造寺氏、有馬氏が激突した沖田畷の戦いでは龍造寺方の兵站基地となり、ルイス・フロイスの『日本史』には「大野城は、高梁の管轄地の最終端にあり、その城主は貧しかった。……しかも彼には、その場所が安全かつ、もっとも好都合に思えたので、彼はその城を隠れ家、倉庫、食料庫とした。……不運な隆信が死んでしまったので、城主はただちに自分の真主君であるドン・プロタジオに投降し、敵が城に貯えておいた軍需品をすべて受けることになった。」とある。

「東鷹野」という地名については他に「中鷹野」、「西鷹野」とあり、藩政時代に鷹狩りが行われていたとの記録がある。

#### 【参考文献】

- 松田毅一・川崎桃太郎 1979『フロイス 日本史10』西九州編Ⅱ 中央公論社
- 有明町 1987『有明町史』上巻
- 浦田和彦編 1992『一野遺跡』（有明町文化財報告書第11集）有明町教育委員会
- 課見富士郎 1993『概要報告書 大野原七反畑遺跡』（有明町文化財報告書第10集）有明町教育委員会
- 長崎県教育委員会 1997『原始古代の長崎県』資料編Ⅱ
- 有明町 2000『長崎県有明町勢要覧』
- 有明の歴史を語る会編 1111『有明の歴史と風土』



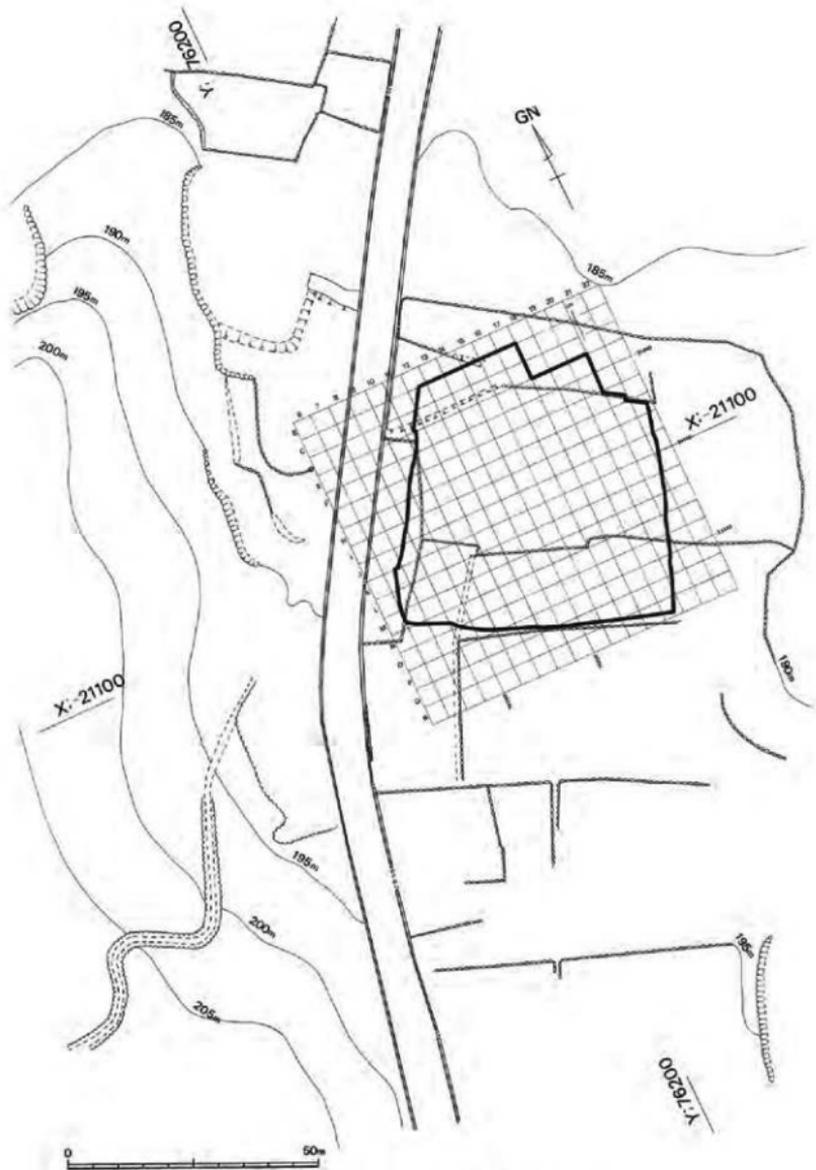
第1図 東鷹野遺跡位置図① (S=1/25,000)



第2図 東麓野遺跡周辺の縄文時代遺跡 (S=1/25,000)  
太い等高線は200mライン



第3圖 東野遺跡位置圖② (S=1/5,000)



第4図 東鷹野道跡周辺地形図 (S=1/1,000)

## 第Ⅱ章 調査に至る経緯

平成2年(1990)11月、198年ぶりに噴火した普賢岳は、以後5年間活動を続け、高崎市、深江町の水無川流域を中心に火砕流・土石流等による甚大な被害をもたらした。特に平成3年6月3日の大規模火砕流では死者・行方不明者43名を出す大惨事となった。

有明町についても、湯江川において平成3年6月に土石流が発生、平成4年・5年にも土石流が発生している。このため雲仙復興工事事務所により土石流災害などから地域住民の生命、財産を守るため砂防ダム建設及び付替道路工事が計画され、平成11年9月より付替道路については工事が着工されていた。

平成12年2月29日、長崎大学助教授 長岡信治氏、国見町教育委員会 辻直人氏、有明町教育委員会 宇土靖之、の3名で有明町内の土層堆積状態の巡視の途中、先述付替道路工事現場内で縄文時代晩期前葉の土器を表採した。後日、有明町教育委員会より有明町役場建設課を経て雲仙復興工事事務所へ連絡。当時、作業は休止中であつたが工事の一時停止の協議をおこなった。

3月9日、長崎県文化課・雲仙復興工事事務所・有明町教育委員会の三者により、すでに削平された部分をのぞき工事対象地の範囲確認調査を行うこと、雲仙復興工事事務所としてはすぐに調査を実施してほしいとのことであつたが、文化課は6月以降でなければ調査主体となるのは困難である為、有明町教育委員会が主体となり範囲確認調査を行うこと等について協議をおこなった。

また周知の遺跡ではない為、新発見の遺跡とし字名より東鷹野遺跡と命名した。

範囲確認調査は町道付替工事に係る標高230mの台地周辺部と砂防ダム本体が建設される標高200mの湯江川左岸の谷底低地部を対象として、平成12年5月8日から平成12年5月17日にかけて実施した。結果は町道付替部分については、数点の遺物は確認できたが、全体的に傾斜地形であり、遺構は確認できなかった。砂防ダム部分は場所によって深浅はあるが縄文時代晩期前葉の遺物包含層が確認でき、柱穴等も確認できた。

なお、砂防ダム建設予定地は広いため、今回、本調査を実施した地区を北区と称し、本調査と並行して範囲確認調査を実施した地区を南区と称する。南区については本調査を回避した。

## 第Ⅲ章 調査組織

### 第1節 範囲確認調査の組織

1. 調査主体 有明町教育委員会

教育長 宮川武利

事務局 松本 正

宇土靖之

長崎県教育委員会 文化課

古門雅高

東 貴之

2. 調査協力 建設省九州地方建設局 雲仙復興工事事務所

### 第2節 本調査の組織

1. 調査主体 有明町教育委員会

教育長 宮川武利

事務局 松本 正

宇土靖之

長崎県教育委員会 文化課

古門雅高

福田一志

2. 調査協力 建設省九州地方建設局 雲仙復興工事事務所

佛壇蔵文化財サポートシステム長崎支店

松尾昌広

渡邊康行

## 第Ⅳ章 範囲確認調査の概要

### 第1節 北区の範囲確認調査の概要

北区の範囲確認調査は平成12年(2000)5月8日(月)から17日(水)まで実施した。事業主体は建設省九州地方建設局雲仙復興工事事務所砂防課、調査主体は有明町教育委員会、調査協力は長崎県文化課がおこなった。

調査は町道建設部分と砂防ダム部分の2箇所で行った。

#### 1. 町道部分の調査の範囲確認調査の概要

試験坑4箇所を設定した。2m×2mで4箇所、16㎡ほどを調査した。調査の結果、遺物包含層は存在せず、調査終了後に工事着工となった。

#### 2. 砂防ダム部分の範囲確認調査(第5図)

##### (1) 土 層

基本土層は下記のとおりである(第8図)。

##### 第1層 表土

第2層 黒色土(黒ボク質) - 縄文晩期包含層 - 1cm以下の白色粒を含みサラサラ、ホクホクしている。礫は含まない。

第3層 黒色土(黒ボク質) アカホヤ下位の黒色土である。

第4層 黄色土 バサバサした粘性のない土質である。黄色を帯びた締まった土層である。2~3cm大の礫が混入する。

第5層 暗茶褐色土。やや粘性の土質であるが、礫などは少ない。

第6層 茶褐色土ないしは青灰色土(礫石原火砕流)の締まった土層で、大小の礫を含む。礫が削られると青味や白色を帯び、それらが斑点状となった土層を呈する。黒色土の影響により茶褐色を呈する場合もある。

##### (2) 概 要

バックホーで幅1.5mのトレンチを14箇所ほど設定し、調査した。調査面積はおおよそ120㎡である。その結果、現在の町道より東に縄文晩期の遺物包含層の広がりやピットを中心とした遺構および整穴状の遺構を検出した。

##### (3) アカホヤの堆積について

台地縁辺部には層厚10cmほどの黄色味を帯びたアカホヤが黒色土(黒ボク質)の間に堆積する。低地部分では町道西側部分で台地縁辺部と同様に黒色土の間に堆積する。低地部分では町道西側部分で台地縁辺部と同様に黒色土の間に堆積する。斜面のため黒色土の影響をうけて色調が濁っており、町道工事部分ほど黄色味は強くない。

町道東側の砂防ダム予定地付近ではアカホヤを検出できなかった。谷底低地であるため、流出したものとみられる。

(4) 調査地の旧地形について (第7図)

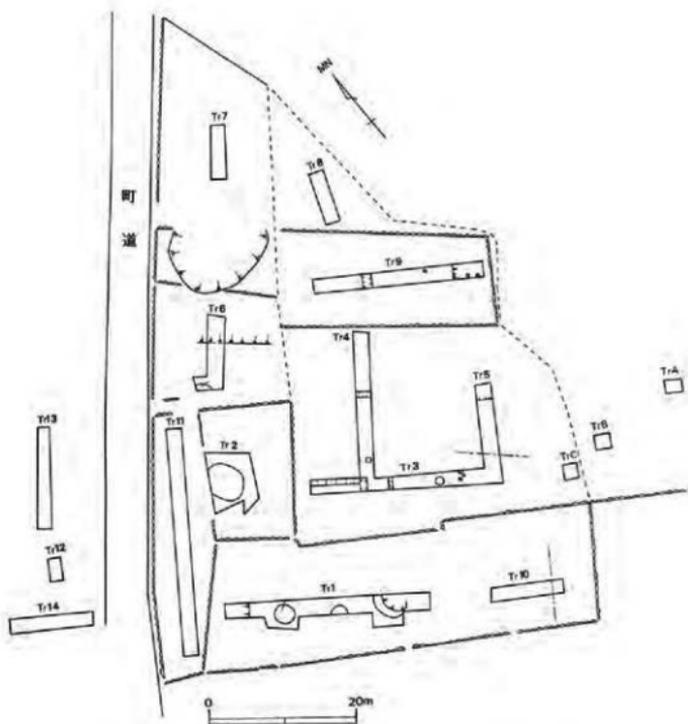
砂防ダム部分には、湯江川と現町道の間に2つの微高地が存在することがわかった。湯江川に近い微高地には包含層は存在しない。

微高地と微高地の間の谷には包含層が堆積する。第3トレンチと第4トレンチの交点付近がもっとも厚く堆積しており、層厚20cmほどである。

(5) 包含層の広がりについて

砂防ダム側の黒色土 (遺物包含層) には白色の砂粒が含まれる。町道工事部分の台地縁辺部ないし、斜面の黒色土には含まれていない。湯江川の氾濫などの影響をうけて砂粒を含んだものとみられる。遺物を出土するのはこの層の下位である。遺物はいずれも縄文時代晩期前半のものである。

包含層は微高地と微高地の間に堆積し、湯江川に近づくほど薄くなる。第7トレンチおよび第8ト



第5図 東鷹野遺跡北区範囲確認調査平面図 (S = 1/500)

レンチでは後世の削平によって表土の下が第4層となっていた。そのためこの2つのトレンチを設定した畑一帯の包含層は失われたと判断された。

## 第2節 南区の範囲確認調査の概要

調査期間は平成12年(2000)8月28日(月)から9月1日(金)まで、北区の本調査と併行して実施した。事業主体は建設省九州地方建設局雲仙復興事務所砂防課、調査主体は有明町教育委員会、調査協力は長崎県教育庁文化課と熊組蔵文化財サポートシステムがおこなった。

### 1. 調査の概要

調査は本調査を実施している北区のグリッドを延長するかたちで設定し、そのグリッドに乗せる形で試掘坑16箇所を設定した。試掘坑は基本的に2m×2mで、全体で70㎡ほどを調査した。

#### (1) 基本土層

第1層 表土、耕作土

第2層 暗茶褐色土 第3層の上に堆積する。量は少ない。

第3層 黒色土 本遺跡の遺物包含層である。

第4層 黄色土 本遺跡の地山である。バサバサした粘性のない土質で、黄色を帯びた土層である。

#### (2) 各試掘坑の概要

##### ①第1試掘坑

地形の落ち込みを検出した。本遺跡の西限を示すものと考えられる。5月の試掘の際に町道の下には、かつて谷が走っていたことが確認されている。前述の落ち込みは、この谷に向かうと判断された。

##### ②第2試掘坑

試掘坑の南東部は、攪乱をうけていた。北西部部分も影響を被っている。

##### ③第3試掘坑

基本層序とおりの堆積を示し、プライマリーな土層と認識した。表土から第4層の地山までは40cmほどである。

##### ④第4・第5試掘坑

表土下5cmより黒色土(包含層)が良好なかたちで堆積している。層厚は15~20cmほどで、ピット(小穴)などの遺構も検出した。

##### ⑤第6試掘坑

後世の削平によって包含層の厚さは薄いにもかかわらず、遺構を検出した。遺構面は表土下20cmほどと浅い。

##### ⑥第7試掘坑

包含層が良好な形で層厚20cmほど残る。地山から60cmほどでピット(小穴)を検出した。

##### ⑦第8試掘坑

第7試掘坑と同様に良好な堆積である。ピット(小穴)を2基検出している。地山面まで70~80cm

で、地山は第7試掘坑よりさらに低い位置からでている。

⑧第9試掘坑

南区で最も東に位置する試掘坑である。表土から地山までは1.2mほどである。土層堆積は水平で、町道下の谷に落ちる手前であるとみられる。

⑨第10試掘坑

包含層は既に削平され、上層は混雑灰褐色土の攪乱土ないし客土である。15～20cm下げたところで地山の黄色土に達した。

⑩第11試掘坑

基本土層どおりの堆積である。

⑪第12試掘坑

南区の中央部東端に設けた。包含層は削平により失われている。土層は第10試掘坑と同じ混雑灰褐色土である。上層は重機などの圧力のため硬くなっているが下層は締まりがなく、礫も均一の大きさではない。削平されたのちに客土されたものと考えられる。

⑫第13試掘坑

第14試掘坑につながる沢状のくぼ地を利用して試掘坑とした。プライマリーな堆積状態を示す。黄色土の上に灰色の砂層がみられた。湯江川から分岐した沢による水成堆積と考えられる。西壁には2基のビット（小穴）、東壁には土坑状の落ち込みを検出した。

⑬第14試掘坑

南区の東端にできた沢状の地形を利用して試掘坑とした。包含層は失われている。

⑭第15・第16試掘坑

南区東側での包含層の南端を確認するために設けた試掘坑である。いずれも成層状態を示した。

(3) 小 結

今回の範囲確認調査の結果、北区に引き続き、ビット（小穴）が確認され、包含層も残存していることが判明した。本来ならば本調査が必要であるが、下記の理由により、本遺跡において本調査は不要と判断した。

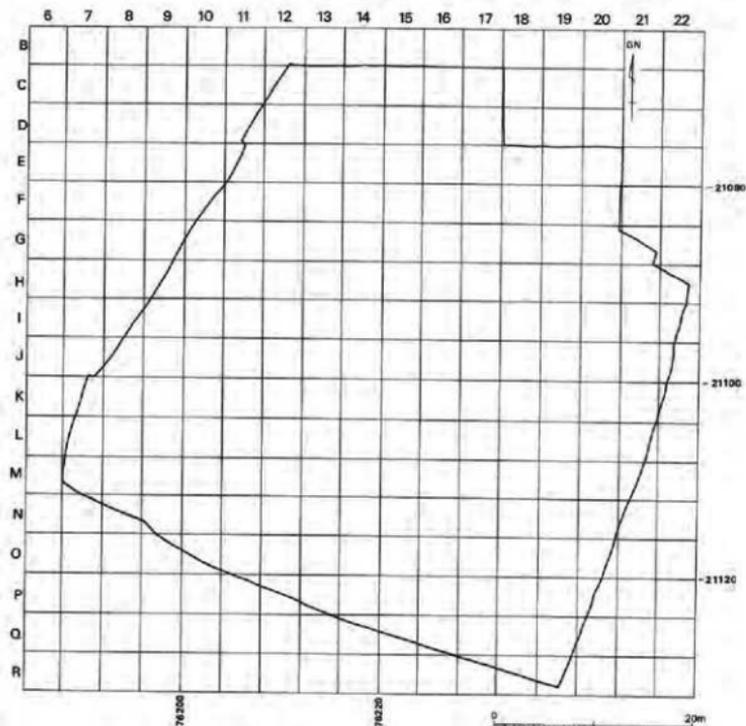
- ①本年度おこなっている北区の調査によって、本遺跡の遺構は近世以降の割石遺構が中心であることが判明したこと。
- ②割石遺構は過去に報告例がなく貴重であるが、既に10基以上を精査し、十分な資料を蓄積できていること。
- ③北区の調査で、既に本遺跡の2/3の面積の調査を実施していること。
- ④本工事が砂防目的で緊急性を要すること。  
などである。

## 第V章 本調査の概要

### 第1節 調査の方法

調査区は全体の形状が台形をなし、東西約60m、南北約60mで全体で約3,600㎡の広さであった。包含層の広がり範囲確認調査の結果、南にも広がることが予想されたので、今年度の調査区を北区と呼称することにした。

調査は国家座標I系を用いて、調査区全体を4m×4mの方眼で区画し、南北方向は北からA,B,Cの順にアルファベットを付加し、東西方向は西から1, 2, 3とアラビア数字を配した(第6図)。グリッドの呼称は各グリッドの南西側の交点が示す符号を用いた。調査区全体の原点はU16とした。

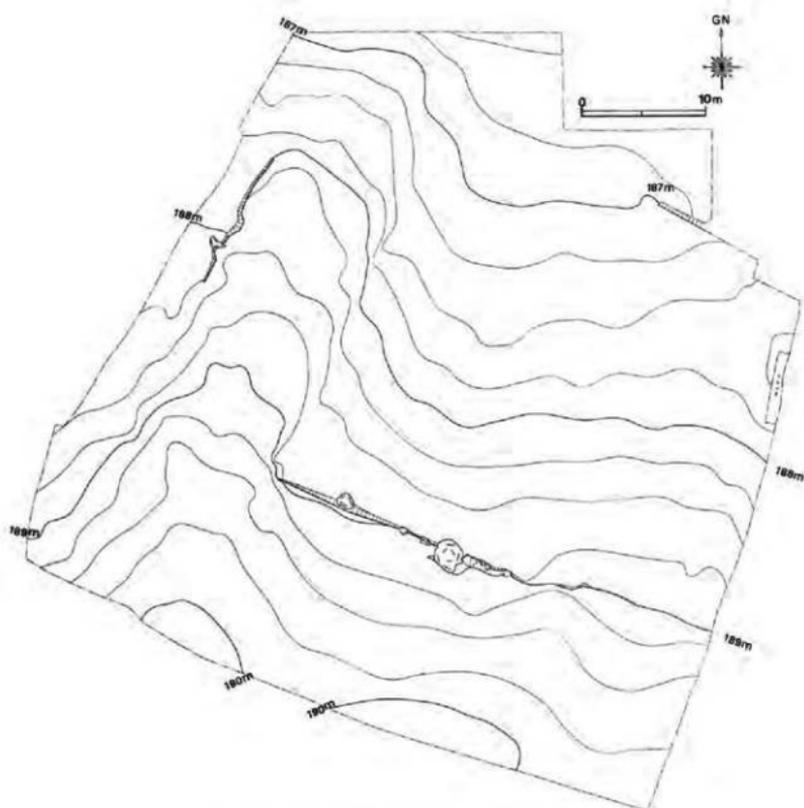


第6図 東鹿野遺跡グリッド図 (S=1/500)

U16の座標はX=-2114.000, Y=76224.000である。

発掘は当初、遺構の検出を優先させるために包含層（第3層）まで重機で除去し、遺構検出を優先させる方法をとったが、遺構が割石廃棄土坑であることが判明した段階で、包含層直上で重機による掘削をとめて、その後、人力による包含層調査と遺構検出に切り替えた。

調査区は南側および西側に微高地がL字形に広がっていたので、発掘はこれら微高地より始めた。



第7図 東鹿野遺跡調査区旧地形図 (S=1/400)

## 第2節 土 層

### (1) 上部層

基本土層は下記のとおりである（第8図）。

#### 第1層 表土

第2層 黒色土（黒ボク質）—縄文晩期包含層—1cm以下の白色粒を含みサラサラ、ホクホクしている。礫は含まない。

第3層 黒色土（黒ボク質）アカホヤ下位の黒色土である。

第4層 黄色土 バサバサした粘性のない土質である。黄色を帯びた締まった土層である。2～3cm大の礫が混入する。六ツ木火砕流である。

第5層 暗茶褐色土。やや粘性の土質であるが、礫などは少ない。

第6層 茶褐色土ないしは青灰色土（礫石原火砕流）の締まった土層で、大小の礫を含む。礫が削られると青味や白色を帯び、それらが斑点状となった土層を呈する。黒色土の影響により茶褐色を呈する場合もある。

### (2) 下部層（第9図）

第4層（淡黄褐色混礫土層）上部層の第4層相当。六ツ木火砕流。

5～10mm大の丸味を帯びた安山岩細礫を多く含む。粘性は無いが乾くと堅く締まり、灰白色から黄灰色を呈する。

#### 第5層（淡褐色混礫砂層）

ベースは砂層で、5～20mm大の安山岩礫を含む。第5a層では礫が少なく、純粋な砂層に近い。TP13や土坑状の落ち込みの壁面にも同一層が見られるが、調査区全域に存在するわけではない。

#### 第6層（淡黄褐色混礫砂質土層）

第4層に似るが礫の量は少なく、砂層に近い。

#### 第7層（淡褐色混礫土層）

色調は第6層に少量の暗赤褐色を加えた感じである。10～20mm大のバラス状の安山岩礫を多く含む。

#### 第8層（黄褐色砂質土層）上部層の第6層相当。

粒度の小さな砂層で、色調は安定している。10mm大の安山岩礫を散在的に含む他、全体に炭化物片を含有する。粘性は無いが、堅く締まっている。

#### 第9層（黄褐色～暗紫灰色砂質土層）

基本的に砂質土層で第9a層には5mm以下の細礫を含む。第9b層～第9d層は礫を含有しない砂質土層で、上位（第9b層）は粒子が粗く、下位（第9d層）は細かい。第9c層は更に粒子の大きさによる細分が可能で、水成堆積の状況を呈する。

#### 第9a層

D P 2の第9a層と似るが、10～30cmの大型礫を含む。

#### 第10層（淡黄褐色混礫土層）

第6層に似るが、細礫の量は比較的少なく、代わりに10cm大の大型礫を含む。

第11層（淡紫灰色砂礫層）

ベースは粒子の粗い砂層（石英主体）で、5～20cm大の細礫を多量に含む他、10cm大以上の大型礫も含む。

第11a層（淡黄褐色砂質土層）

粒度は非常に細かく、紫灰色の砂質が薄く混じる。

第11b層（淡紫灰色砂礫層）

水流堆積による境が確認できる。

第11c層（淡黄褐色砂質土層）

第11a層に似るが単色である。

第11d層（淡黄褐色混礫砂質土層）

5mm前後の安山岩礫を多量に含む。15cm以上の大型礫も含む。粘性はなく堅く締まっている。

第12層（明橙褐色土層）

弱粘性のある土層で粒子は極めて細かい。一見すると粘土層のように見えるが、締まりもあまり強くない。10～20cm大の安山岩礫を微量含む他、50cm以上の巨礫も含む。本層は百花台遺跡第2層に相当する層と考えられ、アカホヤ火山灰（KAh）を含んでいる可能性がある。

第13層（黄褐色～淡黄褐色土層）

火砕流堆積物である。

第14層（淡褐色混礫砂質土層）

火砕流堆積物である。

第15層（淡赤紫色粘質土層）

極めて堅く締まっており、部分的にマンガン膿集が見られる。

第16層（明黄褐色土層）

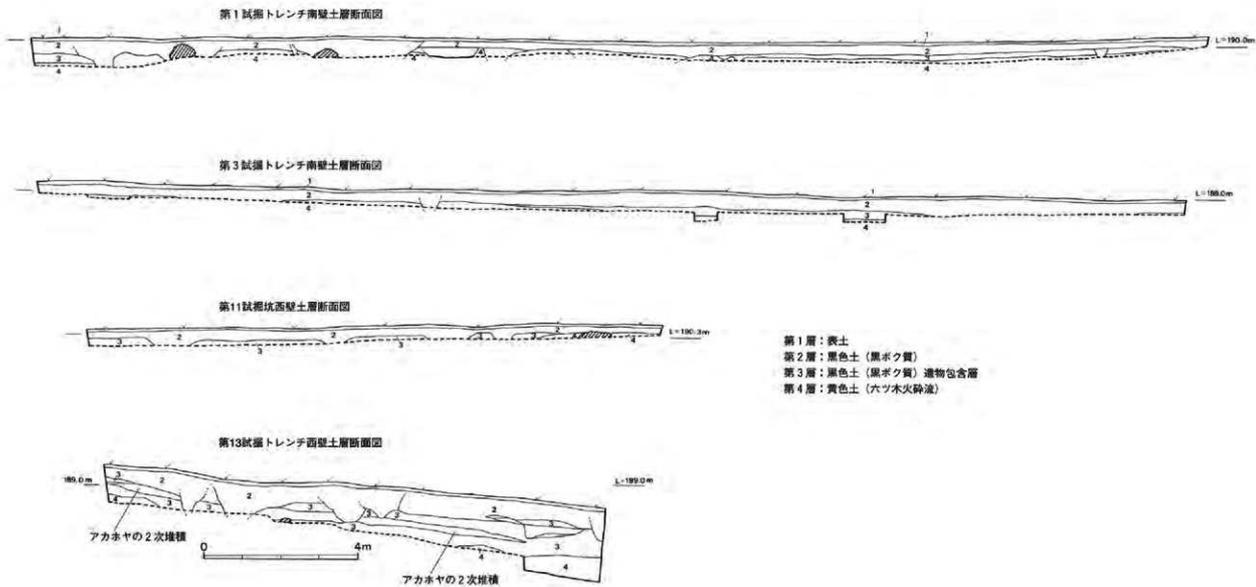
独自層である。

第17層（淡褐色混礫砂質土層）

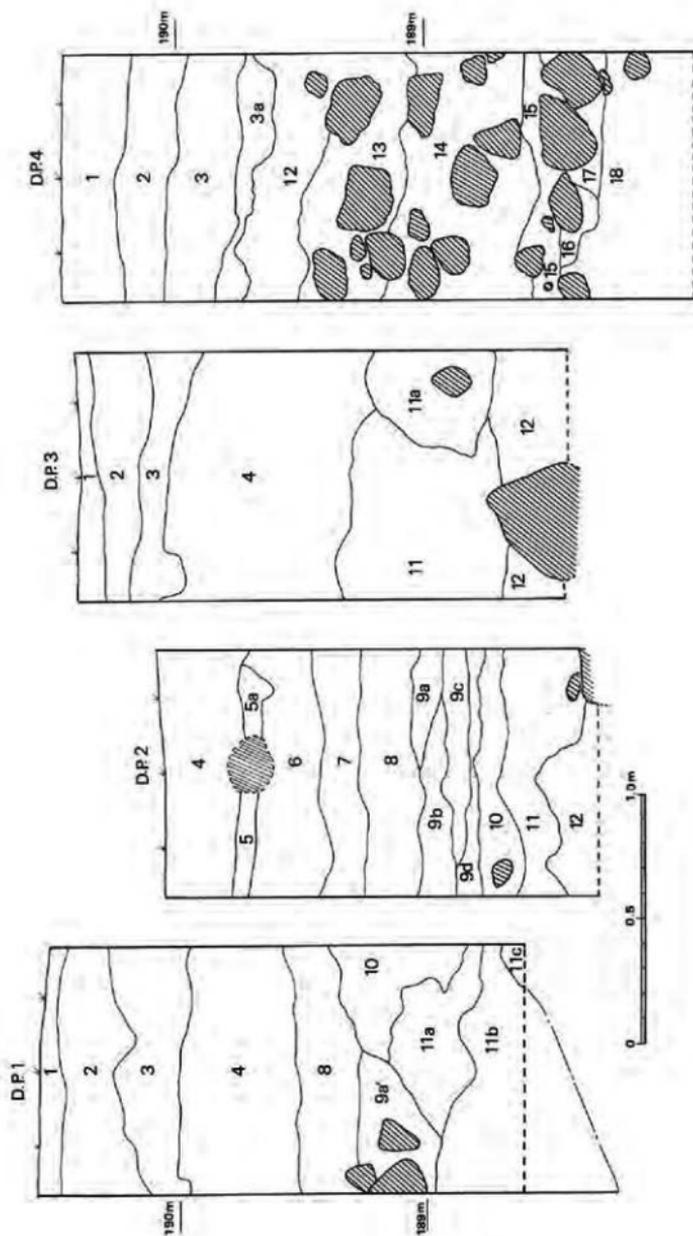
10～50mm大の安山岩礫を多く含む。DP2の第11層と似た砂礫層である。

第18層（暗紫灰色砂礫層）

DP2の第9b層に近い砂層で、粒子による細分層が可能である。水成堆積層である。



第8図 東鹿野遺跡土層図 (S=1/100)



第9図 東藤野遺跡土層図② (S=1/20)

図版 1-A 土層下層部

DP 1



DP 1



DP 2



DP 2



DP 3



DP 3



DP 4

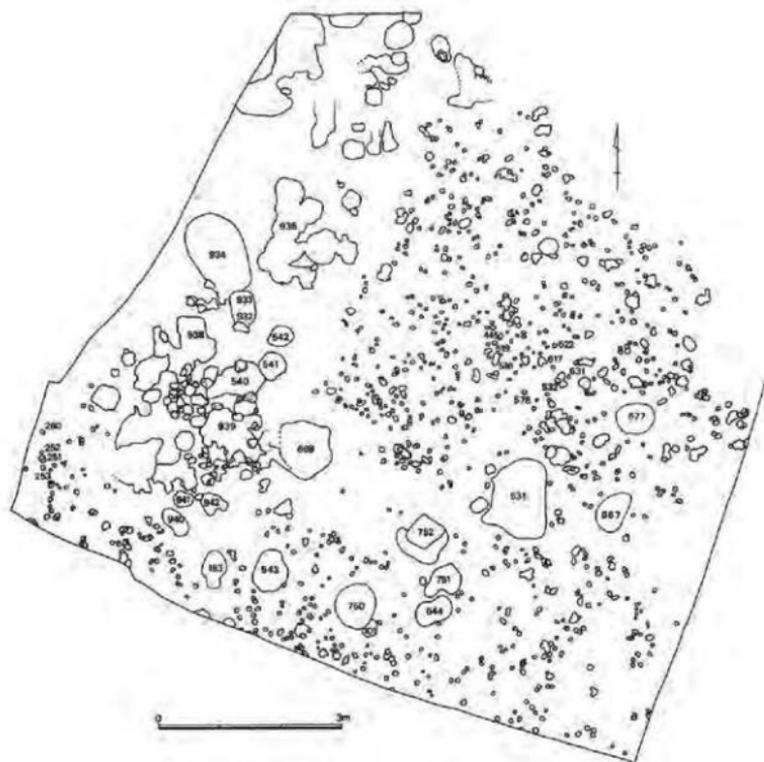


DP 4



### 第3節 遺 構

遺構には近世以降の割石廃棄土坑群と、縄文時代以降のピット（小穴）群がある。

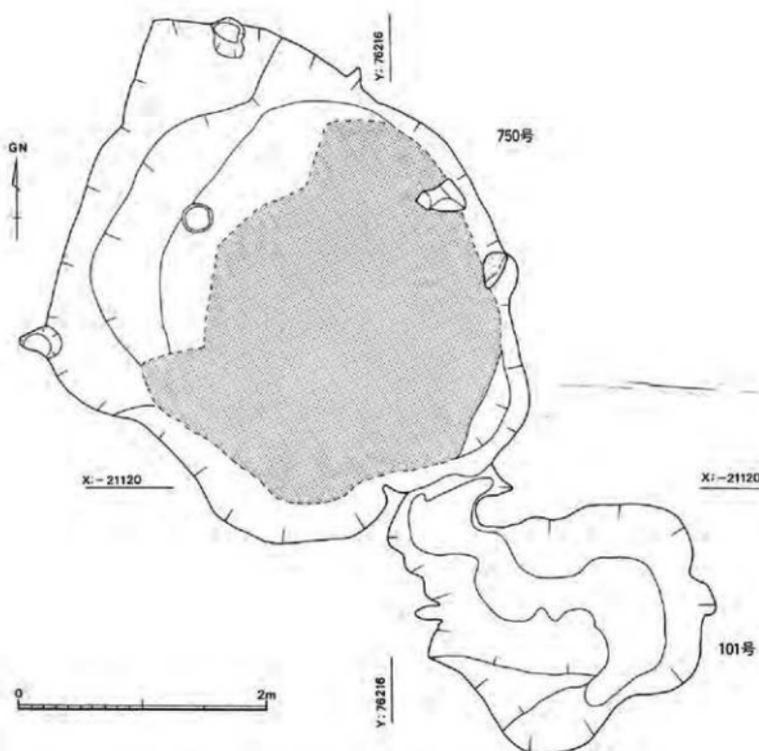


第10図 東原野遺跡遺構配置図 (S=1/400)

## 1. 割石廃棄土坑

割石廃棄土坑とは農地開拓の際に、障害となる露出した巨石を破砕して廃棄したり、畑の石垣用の割石採取のための作業として用いた土坑のことを仮称したものである。廃棄のパターンには数種類ある。典型的なものは第14図に模式図で示したように巨石の周りに土坑を掘り、破砕した岩塊を土坑内に廃棄するものである。最終的に土坑は黒色土（第3層）で丁寧な埋められる。また破砕した岩塊を大きさによって選別し、廃棄した状態も確認できる。

(1) 第101号、第750号遺構（割石廃棄土坑）（第11図）（図版1）



第11図 第101号、第750号遺構（割石廃棄土坑）平面実測図（S=1/40）

図版 1 - B 第101号, 第750号遺構 (割石鹿寨土坑)



◀ 第101号遺構検出状況

第101号遺構完掘状況▶



◀ 第750号遺構半截

第750号遺構完掘状況▶



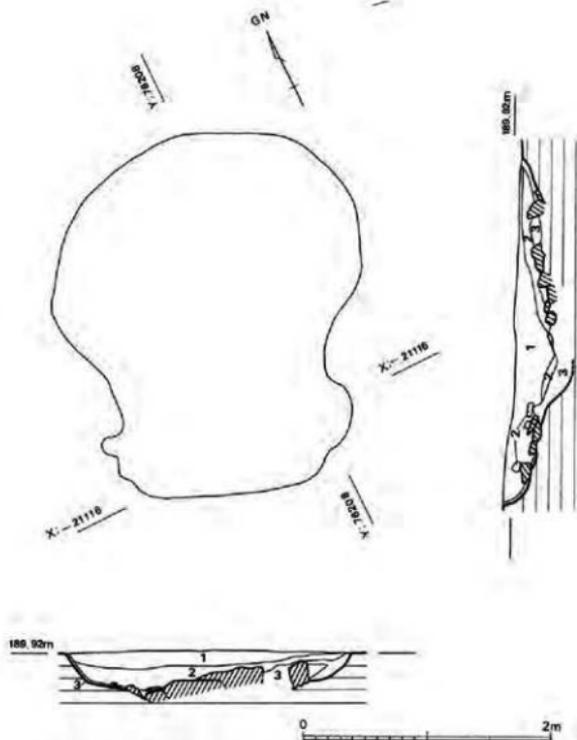
(2) 第183号遺構 (割石廃棄土坑) (第12図, 図版2)

①土層断面

第1層 灰白色土

第2層 黄白色砂礫層 (第4層を主体とする)

第3層 暗黒褐色土 (締まりがなく、隙間に入るスカスカしたもので際とともに入れられた土である) 石を投げ込むと同時に壁際まで第3層を入れ、次に第2層の黄褐色砂礫層を北西側から投げ入れている。最後に第1層を投げ入れている。



第12図 第183号遺構 (割石廃棄土坑) 実測図 (S=1/40)

图版 2 第183号遺構（割石鹿棄土坑）



遺構検出



遺構半貌



壘群検出



完掘状況

(3) 第531号遺構（割石廃棄土坑）（図版3）

図版3 第531号遺構（割石遺構）

遺構検出



遺構半截



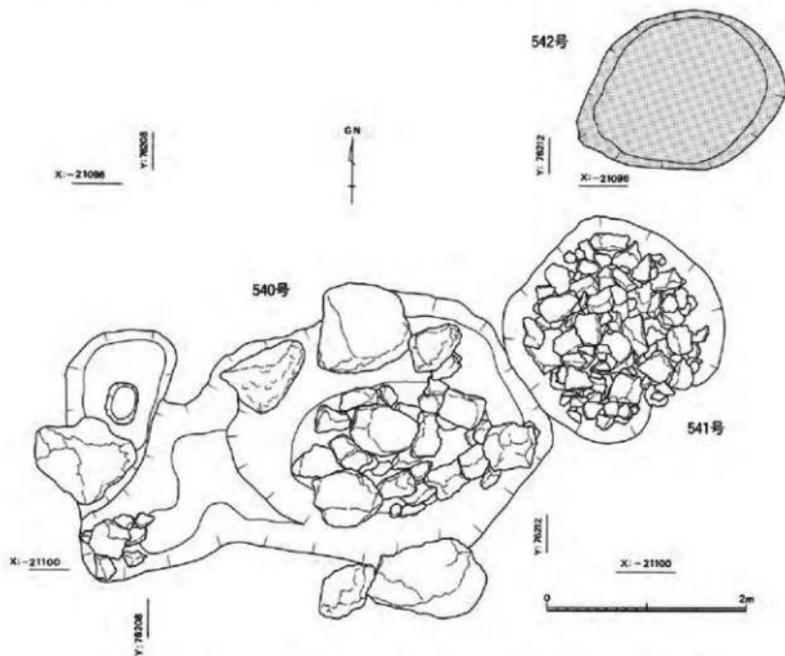
作業風景



矢ガネの出土状況

(4) 第540号遺構, 第541号遺構, 第542号遺構 (第13図) (図版4・5)

第542号土坑は浅い土坑で, 破片のみが含まれ, 第541号土坑は30~40cm角の割石, 第540号土坑は50~60cm大の礫と, 明らかに土坑によって廃棄する石材を選別している。



第13図 第540号, 第541号, 第542号遺構 (割石廃棄土坑) 平面実測図 (S = 1/50)

図版4 第540号, 第541号, 第542号遺構 (割石廃棄土坑) 検出状況



図版5 第540号, 第541号, 第542号遺構 (割石廃棄土坑)

選別された石材  
を充填した土坑群



(5) 第543号遺構（割石廃棄土坑）（図版6）

図版6 第543号遺構（割石廃棄土坑）



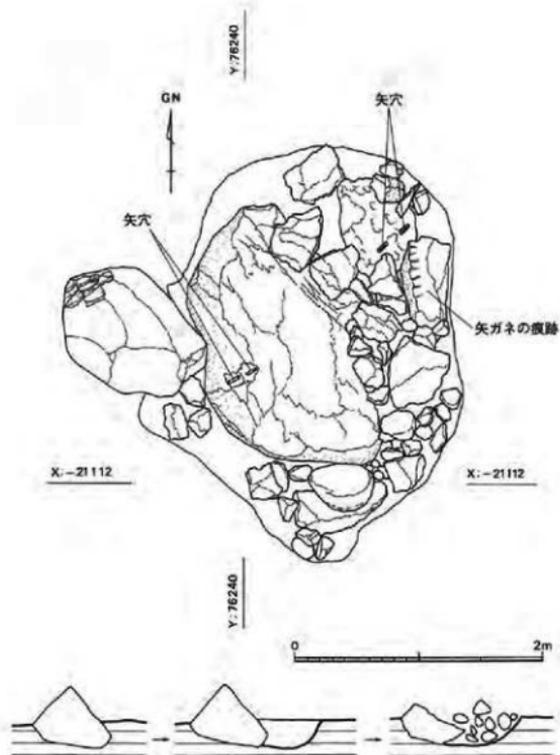
(6) 第644号遺構（割石廃棄土坑）（図版7）

図版7 第644号遺構（割石廃棄土坑）（右）



(7) 第667号遺構 (第14図) (図版8)

中央の大石の周りには土坑を掘り、岩塊の高い部分を割り、土坑内に廃棄している。岩塊の高い部分を割ることにより、畑地耕作の邪魔にならないようにしたものか。岩の一部には「矢ガネ」の痕跡がこっている。また矢ガネを打ち込むための「矢穴」が4箇所確認できる



第14図 第667号遺構 (割石廃棄土坑) 平面実測図 (S=1/40) 及び廃棄模式図

図版8 第667号遺構（割石廃棄土坑）

遺構検出



矢ガネ痕跡



完壘状況



(8) 第677号遺構 (割石廃棄土坑) (図版9)

図版9 第677号遺構 (割石廃棄土坑)

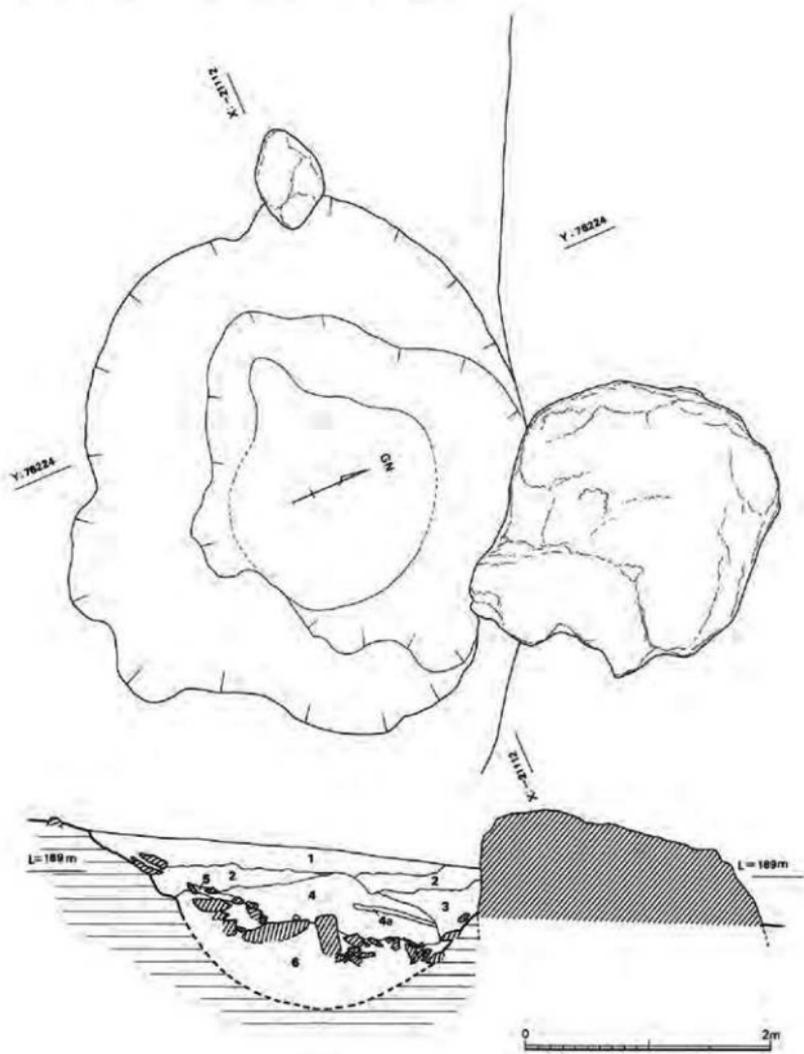


(9) 第751号遺構 (割石廃棄土坑) (図版10)

図版10 第751号遺構 (割石廃棄土坑) (左)



(10) 第752号遺構 (割石廃棄土坑) (第15図) (図版11)



第15図 第752号遺構 (割石廃棄土坑) 実測図 (S=1/40)

図版11 第752号遺構（割石廃棄土坑）



◀遺構半截①

土層▶



◀遺構半截②

作業風景▶



(1) 第774号遺構（割石廃棄土坑）（図版12）

図版12 第774号遺構（割石廃棄土坑）



(2) 第932号，第933号，第934号遺構（第16図）（図版13）

第933・932土坑は第934土坑を切っており，上部から破碎礫の上面がのぞいており，黒色土を丁寧に上部に被せた形跡はない。

第935土坑にくらべると第932～934土坑は剥片状の薄い礫が多く，角礫状のものを見いだすことはできない。新旧関係として第934土坑→第933土坑→第932土坑の順に形成されたものと思われる。

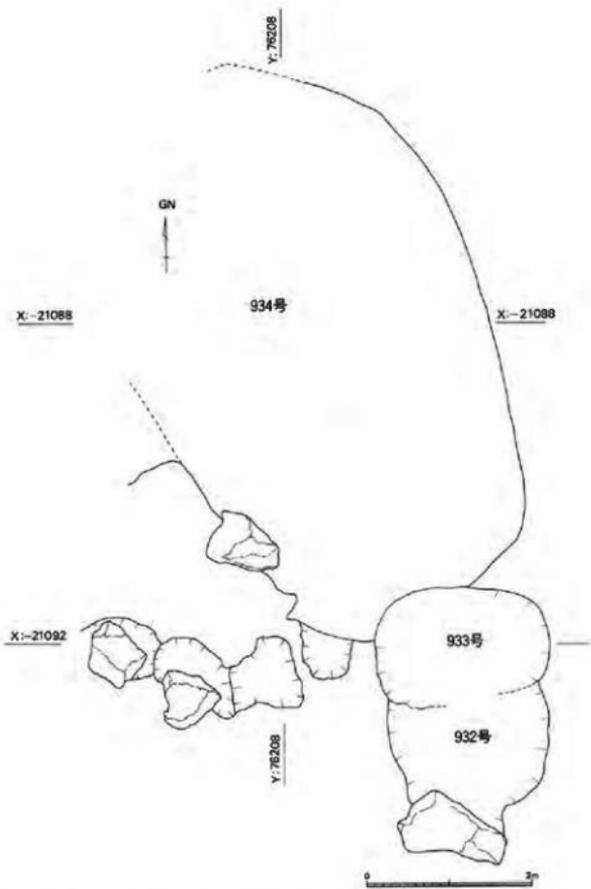
図版13 第932号，第933号，第934号遺構



完掘状況▶



作業風景▶

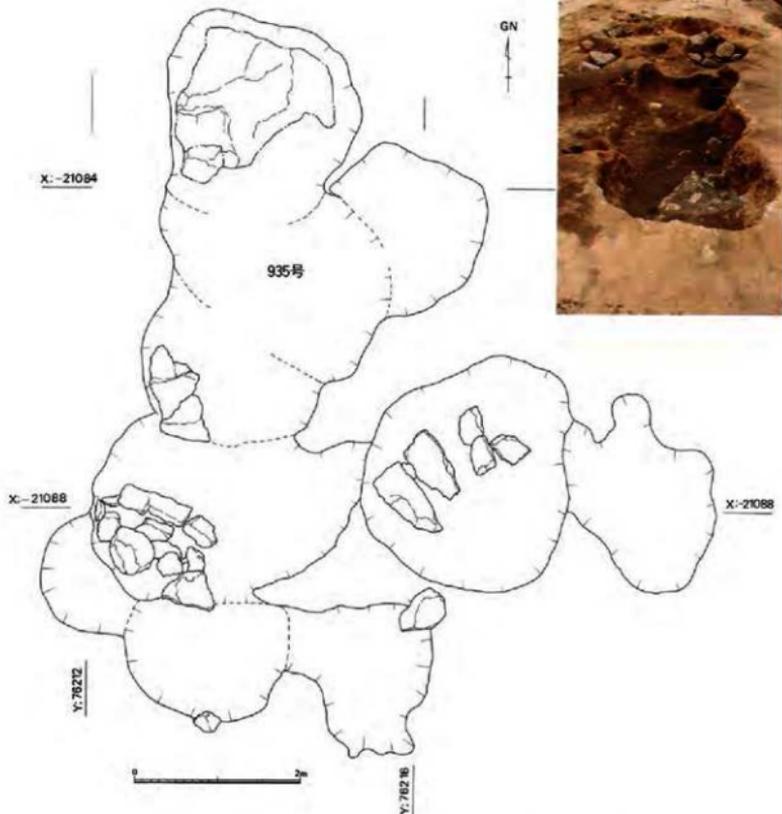


第16图 第932号, 第933号, 第934号遺構(割石鹿棄土坑)平面実測図 (S=1/60)

⑬ 第935号遺構 (第17図) (図版14)

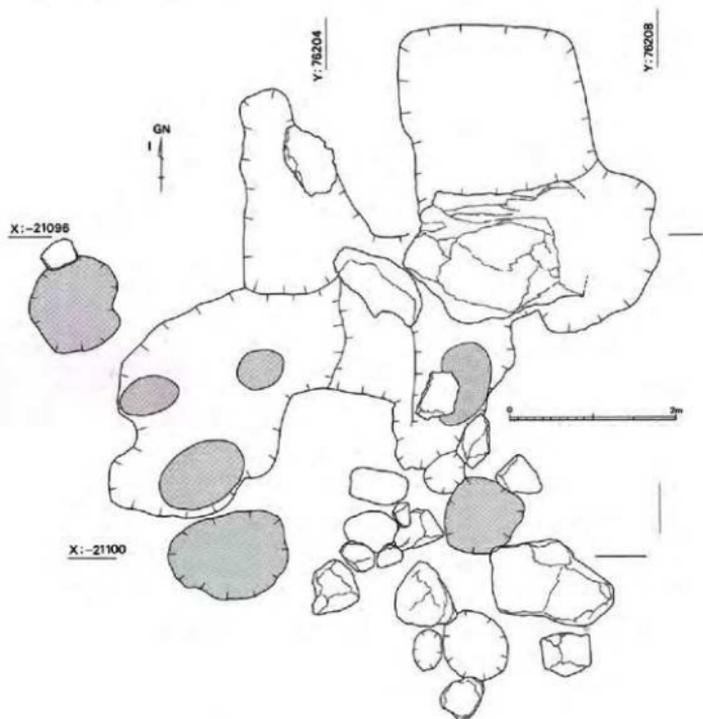
すべて上部に漆黒色土 (第3層) をかぶせた状態で検出した。下部には破砕礫が混入している。また下部には大形礫が地山に入り込んだ状態で検出されている。この礫を打ち割り、屑片を廃棄した状況である。この際、付近の安山岩円礫も投入している。遺物としてはビール瓶、明治時代以降の焼き物などが出土する。

図版14 第935号遺構(割石廃棄土坑)



第17図 第935号遺構 (割石廃棄土坑) 平面実測図 (S = 1/60)

(14) 第938号遺構 (割石廃棄土坑) (第18図) (図版15)

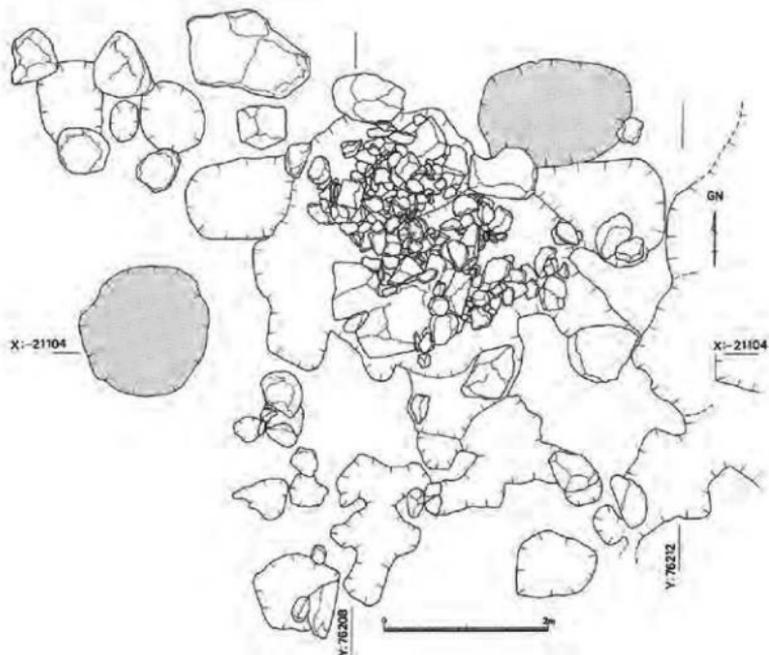


第18図 第938号遺構 (割石廃棄土坑) 平面実測図 (S = 1/60)

図版15 第938号遺構



(15) 第939号遺構 (割石廃棄土坑) (第19図)

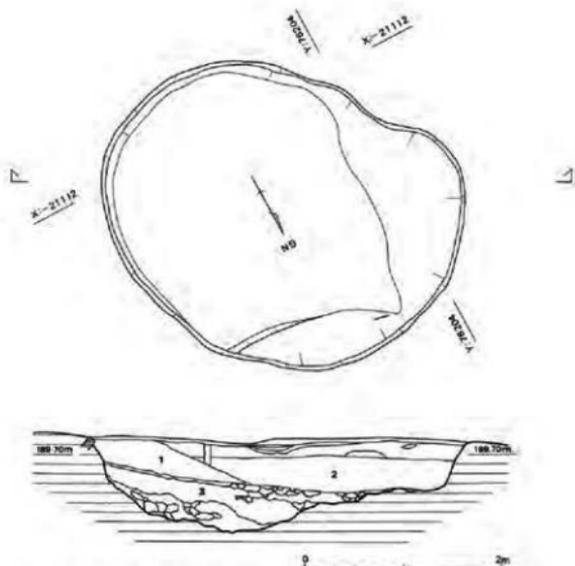


第19図 第939号遺構 (割石廃棄土坑) 平面実測図 (S=1/60)

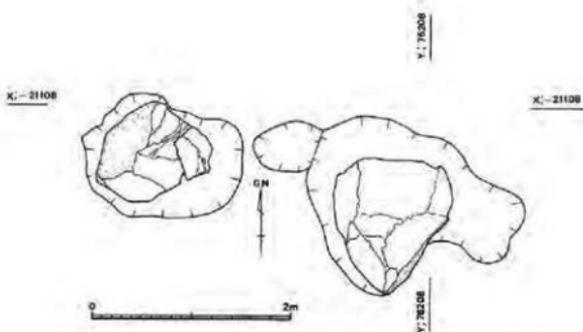
(16) 第940号遺構 (割石廃棄土坑) (第20図) (図版16)

輝石安山岩の大形礫を破砕し、投げ込んだ後、土をかぶせた状況である。埋土①は灰褐色地に黄褐色土が小さな層をなし、図面左側から土を投げ込んだ状況が見て取れる。埋土②は黒味が強く、ブロックあるいは粒子状に黄褐色土が入る。埋土①のあと一気に埋められたものと思われる。埋土②上には第3層に近い黒褐色の粘質土がのる。その上には細かな砂層が観察されるが、この砂層はこの土坑を埋めたのち、土坑中央が陥没したことにより砂が堆積したものであろう。廃石層はしまりがなく、石と石の間には間隙がある。

(17) 第941号、第942号遺構 (割石廃棄土坑) (第21図)



第20图 第940号遺構（割石廃棄土坑）実測図（S=1/50）



第21图 第941号，第942号遺構（割石廃棄土坑）実測図（S=1/50）

图版16 第940号遺構



検出状況



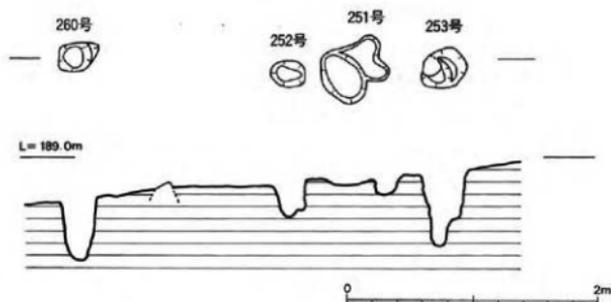
土層



発掘状況

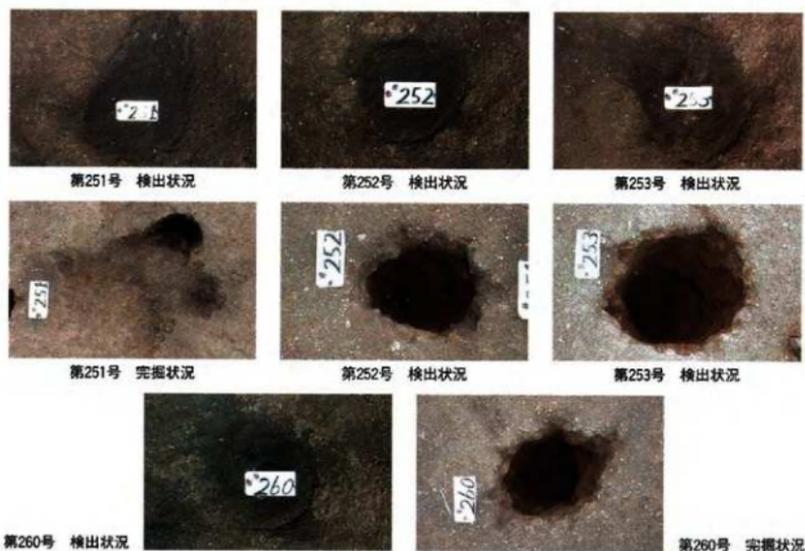
## 2. ピット (小穴) (第1~4表)

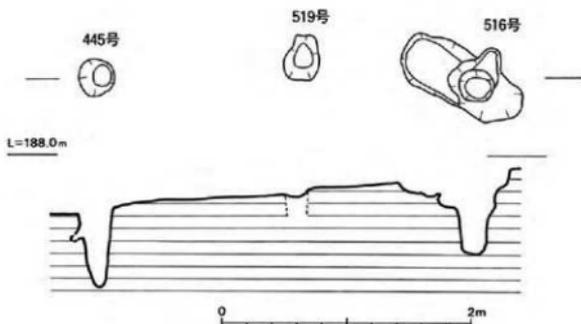
調査区全体で約900個のピットを検出した。地形が南から北へ傾斜しているため、南側のピットのほうが深く、北へいくほど浅くなる。検出したピットはあきらかに樹木の根跡であるものも存在するが、柱穴と認める遺構も存在する。しかしながら柱穴と認めたピットも建物跡などのまとまったものではなかった。



第22図 第251号、第252号、第253号、第260号遺構実測図 (S=1/40)

図版17 第251号、第252号、第253号、第260号遺構





第23图 第445号, 第516号, 第519号遺構実測図 (S = 1/40)

図版18 第445号, 第516号, 第519号遺構



第445号 検出状況



第516号 検出状況



第519号 検出状況



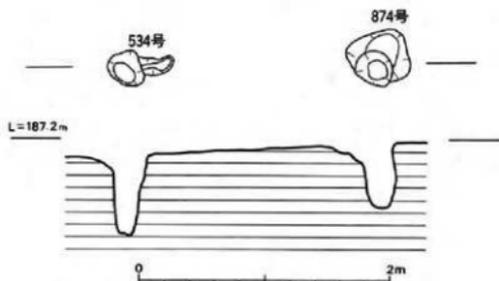
第445号 完掘状況



第516号 完掘状況



第519号 完掘状況



第24图 第534号, 第874号遺構実測図 (S = 1/40)

图版19 第534号, 第874号遺構



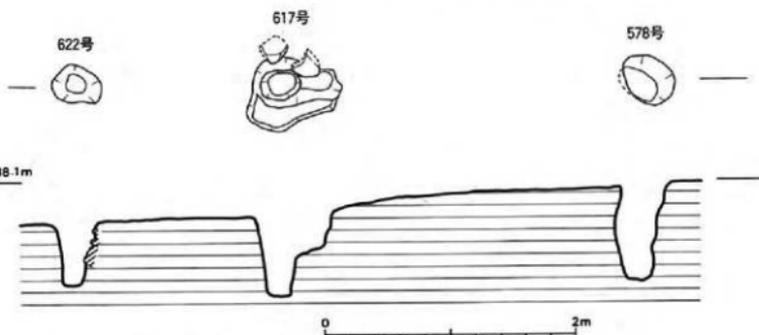
第534号 検出状況



第874号 検出状況



第874号 完掘状況



第25図 第578号, 第617号, 第622号遺構実測図 (S=1/40)

图版20 第578号, 第617号, 第622号遺構



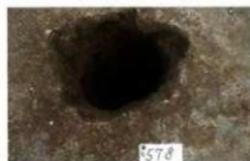
第578号 検出状況



第617号 検出状況



第622号 検出状況



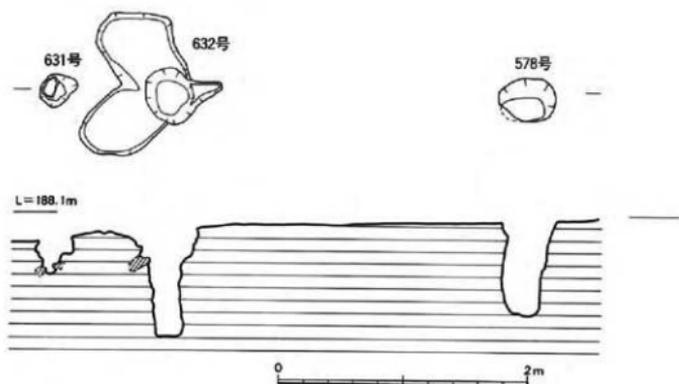
第578号 完掘状況



第617号 完掘状況



第622号 完掘状況



第26图 第578号, 第631号, 第632号遺構実測図 (S=1/40)

図版21 第578号, 第631号, 第632号遺構



第631号 検出状況



第632号 検出状況



第631号 発掘状況



第632号 発掘状況

表1 遺構一覧表①

NO	グリット	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	底径(cm)	NO	グリット	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	底径(cm)
1	R-20	25	-	25	柱穴		104	P-15	32	23	21	根跡	
2	R-20	18	-	7	根跡		113	P-14	32	32	21	柱穴	19
3	R-20	160	130	40	土坑		114	P-14	37	34	15	柱穴	15
4	R-19	25	-	18	柱穴		119	P-16	28	20	17	根跡	18×13
5	R-19	30	-	15	-		122	P-14	25	25	26	柱穴	12
6	R-19	35	28	20	根跡		128	P-13	30	30	31	柱穴	13
7	R-19	40	30	20	根跡		130	P-13	34	24	31	根跡	13
8	R-19	30	20	12	その他		133	P-13	55	31	33	柱穴	11
10	R-18	45	40	25	柱穴	22	137	P-12	22	20	22	根跡	12×7
15	Q-20	45			根跡		139	P-12	30	28	28	柱穴	
17	Q-18	30	25	15	柱穴		142	O-14	25	20	17	柱穴	10
18	Q-18	25	20	22	柱穴		153	O-13	28	24	28	柱穴	10
19	Q-18	35	25	22	根跡		156	O-13	23	23	35	根跡	8
20	Q-18	35	35	19	根跡	18	160	O-12	43	27	40	柱穴	11
21	Q-18	30		13	根跡	20	162	O-12	29	25	26	柱穴	12
22	Q-18	45	35	20	根跡		164	O-12	33	24	16	根跡	8
23	Q-18	30	27	18	根跡		165	O-12	25	18	20	根跡	10
24	Q-18	31	26	39	柱穴	15	166	O-12	30	27	21	根跡	
25	Q-18	35	23	13	柱穴	22	167	O-12	40	32	34	-	8
26	Q-18	27	28	11	-		175	O-11	32	32	42	柱穴	
29	P-18	50	38	32	柱穴	152	183	N-11	-	-	-	削石遺構	
30	P-18	35	33	18	柱穴	17	185	N-12	26	23	15	柱穴	
31	P-20	33	25	14	柱穴		187	N-12	40	30	66	柱穴	12×8
32	P-20	32	30	17	柱穴		188	N-13	40	26	30	柱穴	16×8
33	P-20	40	33	20	柱穴	16	189	N-13	30	20	32	柱穴	6×8
34	P-20	33	25	22	柱穴	13	201	N-10	35	33	25	柱穴	17
35	P-20	26	26	15	根跡		204	N-10	34	26	36	-	12
40	P-18	28	22	14	根跡	11	210	N-10	30	20	22	柱穴	8×11
41	P-18	30	22	14	-	14	215	M-9	65	57	56	柱穴	11
43	P-18	30	24	13	柱穴		218	N-9	43	35	29	根跡	12
44	P-18	28	22	13	柱穴		221	M-9	40	30	43	柱穴	17
45	P-17	190	170	30	土溜まり		222	M-9	24	20	35	柱穴	20
46	P-18	44	35	27	根跡	11	224	M-9	35	35	35	柱穴	20
61	P-18	26	24	21	根跡	14	232	K-9	40	30	15	柱穴	20
64	Q-17	40	35	23	柱穴	12	234	L-9	20	20	20	根跡	10
70	Q-16	27	27	19	根跡	15	235	L-9	20	18	34	根跡	10
72	P-17	27	27	27	柱穴	15	237	M-8	35	30	18	根跡	20
82	P-17	60	50	59	柱穴	20×12	239	M-8	25	20	30	柱穴	15
83	P-16	60	30	32	柱穴	12	242	M-8	32	20	30	柱穴	20×15
84	P-16	26	26	26	柱穴		243	M-8	40	28	40	柱穴	17
88	Q-15	24	20	20	柱穴	12	244	M-8	30	27	40	柱穴	17×11
95	P-15	30	24	17	柱穴		246	M-8	38	30	54	柱穴	15
99	P-15	29	27	20	柱穴		250	L-8	35	25	38	柱穴	11
103	P-14	20	18	19	根跡	6	252	L-8	30	25	30	柱穴	17

表2 遺構一覧表②

NO	グリット	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	底径(cm)	NO	グリット	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	底径(cm)
253	L-8	40	33	60	柱穴	16	379	K-15	48	29	25	根跡	10
254	L-8	30	20	40	柱穴	8	382	K-15	33	28	43	根跡	5
255	L-8	38	30	30	-	20	383	K-15	38	28	30	-	13
259	L-8	30	26	35	柱穴	11	385	K-15	28	20	32	-	10
260	L-8	35	25	50	柱穴	20	389	K-15	40	30	44	柱穴	15
261	K-9	30	28	30	-	17×12	390	K-15	29	25	20	柱穴	13
262	K-9	40	25	30	-	18×14	391	K-15	60	25	43	-	13
263	K-9	20	20	20	-	9	395	K-15	36	26	50	柱穴	18
265	K-9	30	26	35	柱穴	14	397	K-14	30	22	30	柱穴	9
278	N-20	40	30	30	柱穴	12	398	K-14	23	20	25	柱穴	12
279	N-20	40	30	30	柱穴	20	404	K-14	33	20	25	柱穴	14
283	N-19	30	30	35	柱穴	16	410	J-14	28	28	22	柱穴	12
284	N-19	30	33	20	柱穴	15	412	I-16	30	24	35	柱穴	10
285	N-19	78	50	30	柱穴	25	420	J-15	38	27	32	-	9
286	N-19	55	30	36	柱穴	14	423	J-15	35	25	20	柱穴	12
287	N-19	30	25	17	根跡	20×11	424	J-15	20	20	20	柱穴	10
290	N-19	50	36	32	-	13	425	J-15	27	22	26	柱穴	9
294	O-19	45	30	22	根跡	35×8	437	I-15	25	20	20	柱穴	10
297	O-19	95	50	40	根跡	17	438	I-15	30	18	21	柱穴	9
301	O-18	36	33	24	-	19×14	439	I-15	40	22	21	柱穴	11×8
307	N-18	70	30	60	柱穴	14	440	J-17	48	20	35	柱穴	20×11
309	N-18	45	27	36	-	19	442	I-18	45	40	45	柱穴	12
313	N-18	26	25	22	根跡	8	443	I-17	50	40	55	柱穴	19
316	N-17	38	25	47	柱穴	14	444	I-17	37	30	29	-	18
318	N-17	35	30	30	-	14	445	I-17	30	24	59	柱穴	8
319	N-17	32	28	33	柱穴	10	446	I-17	26	26	27	柱穴	12
320	N-17	34	28	17	柱穴	15×10	448	I-17	23	22	33	柱穴	10
322	N-17	45	40	36	根跡	16	452	I-16	30	25	40	-	12×10
326	O-17	30	23	24	柱穴	12	453	I-16	50	30	38	-	10×9
329	O-16	30	30	45	柱穴	14	459	I-16	26	20	20	柱穴	10
330	O-16	35	28	18	柱穴	23×13	461	I-16	27	20	20	柱穴	10
331	O-16	25	25	27	柱穴	12	464	I-16	28	15	20	柱穴	7
334	O-16	35	25	35	柱穴	14	465	I-16	30	26	29	柱穴	16×10
337	O-15	22	20	24	柱穴	11	471	J-16	47	30	36	柱穴	13
344	N-15	22	20	20	柱穴	8	472	J-16	23	20	26	柱穴	11
347	M-15	30	25	18	柱穴	12	474	J-16	30	26	25	柱穴	12
350	N-14	37	28	22	柱穴	15	478	J-16	26	21	20	柱穴	12
352	N-14	58	25	34	-	18	484	J-16	28	22	36	柱穴	13
354	N-14	23	22	33	根跡	13	488	K-16	36	20	45	柱穴	11
361	M-12	38	38	33	根跡	12	490	K-16	30	25	33	柱穴	14
362	L-13	25	20	25	根跡	10	491	K-16	30	26	21	柱穴	10
371	L-15	40	35	23	柱穴	17×25	494	K-16	33	24	18	柱穴	11
372	L-15	52	26	28	根跡	11	495	K-16	30	23	20	柱穴	15
373	K-15	40	30	38	-	16×9	503	K-17	27	23	32	柱穴	9

表3 遺構一覧表③

NO	グリット	長さ(m)	間隔(m)	深さ(m)	種別	底径(m)	NO	グリット	長さ(m)	間隔(m)	深さ(m)	種別	底径(m)
506	K-17	27	24	30	根跡	16×12	603	H-15	33	19	22	柱穴	10×7
509	K-17	28	28	20	根跡	10	605	H-15	34	27	20	柱穴	12
513	J-17	107	50	58	柱穴	32×23	613	J-18	22	22	25	柱穴	10
514	J-17	50	30	50	根跡	18×10	617	J-18	34	33	71	柱穴	11
515	J-17	30	27	40	柱穴	12	622	J-18	38	29	52	柱穴	9
516	J-17	100	55	63	柱穴	17	624	J-19	25	24	38	柱穴	12×10
517	J-17	73	35	25	柱穴	22	625	J-19	33	33	76	柱穴	10
518	J-17	30	25	22	柱穴	10	628	J-19	25	23	35	柱穴	11×6
519	J-17	33	26	44	柱穴	10	629	J-19	30	19	23	柱穴	12×6
520	J-18	25	20	13	柱穴	14	631	J-19	30	22	27	根跡	8×5
521	I-18	24	24	17	-	13	632	J-19	43	37	90	柱穴	14
523	I-18	30	35	32	柱穴	15×9	639	K-19	34	29	30	柱穴	9
527	I-18	30	20	21	柱穴	11	640	K-19	37	22	33	柱穴	14×9
528	I-18	30	24	19	柱穴	12	645	K-19	30	21	24	柱穴	14×8
530	I-17	25	22	10	柱穴	13	646	K-19	37	22	33	柱穴	12
531	M-18	-	-	-	新石遺構		655	L-19	37	30	62	柱穴	13
532	I-17	33	30	34	柱穴	14	662	L-17	24	21	18	柱穴	9×8
533	I-17	24	20	22	柱穴	10	671	L-20	42	37	52	柱穴	12
536	I-17	40	20	18	柱穴	11	672	L-20	45	33	58	柱穴	9×4
539	J-12	22	20	15	柱穴	12	674	L-20	23	22	17	柱穴	8
540	J-12	-	-	-	新石遺構		678	K-20	50	40	32	柱穴	8
541	J-13	-	-	-	新石遺構		682	J-20	23	21	25	柱穴	
542	I-13	-	-	-	新石遺構		685	J-20	30	26	32	柱穴	10
543	O-13	-	-	-	新石遺構		686	J-20	31	22	23	柱穴	17×8
549	L-16	43	33	32	柱穴	13	688	J-20	39	36	36	柱穴	12×8
553	L-16	38	38	30	柱穴	20	693	J-20	28	23	35	柱穴	8
555	L-16	40	28	24	柱穴		694	J-20	50	31	31	柱穴	14×10
556	L-16	25	21	21	柱穴		695	J-20	38	30	24	柱穴	11×10
557	L-16	34	21	39	柱穴		696	J-20	32	30	38	柱穴	13×7
563	L-18	32	30	30	柱穴	12×8	701	I-20	43	44	42	柱穴	13×11
568	L-18	36	27	30	柱穴	9	702	I-20	39	32	30	根跡	8×3
570	K-18	41	36	30	柱穴		703	I-20	30	24	22	根跡	12×11
574	K-18	23	20	37	柱穴	7	707	I-20	31	28	23	柱穴	11×5
575	K-18	30	24	21	柱穴	12	710	M-20	30	30	33	柱穴	12×10
577	L-18	22	20	31	柱穴	10×7	716	M-20	30	30	42	柱穴	13
578	K-18	43	34	78	柱穴	14×10	718	M-20	37	31	44	柱穴	12
579	I-19	26	30	27	柱穴	14×12	723	H-20	50	34	76	柱穴	11
583	I-19	25	23	18	柱穴	11	725	H-19	32	23	39	柱穴	10×9
587	I-19	42	30	37	柱穴	7	728	H-19	45	29	25	柱穴	12×8
588	I-19	29	20	19	柱穴	14×10	731	H-19	35	25	31	根跡	9×6
589	H-15	36	18	26	柱穴	8×6	734	H-18	19	19	16	根跡	12×10
593	H-16	28	22	22	柱穴	13×10	735	H-18	24	20	16	柱穴	11×9
597	H-16	26	19	24	柱穴	16×8	740	H-17	24	20	21	柱穴	7×5
602	H-15	27	27	28	柱穴	10	742	H-17	40	27	27	柱穴	12×10

表4 遺構一覧表④

NO	グリット	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	底径(cm)	NO	グリット	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	種別	底径(cm)
744	H-17			20	柱穴		852	G-19	36	23	24	柱穴	11×8
745	H-17			15	-		853	G-19	35	33	29	柱穴	7×6
746	H-17	28	26	23	柱穴	13×11	854	G-19	22	19	20	根跡	9×7
747	H-17	49	40	23	柱穴	14×8	856	G-20	23	21	24	柱穴	10×8
748	A-18	30	23	22	-		858	G-20	33	22	22	柱穴	9×7
748	B-18	31	25	22	-		861	G-16	22	18	18	柱穴	11×7
750	O-14	-	-	-	削石遺構		863	F-16	25	18	198	柱穴	10×8
751	O-16	-	-	-	削石遺構		864	F-16	32	26	50	柱穴	11×9
752	N-16	-	-	-	削石遺構		867	F-16	35	27	35	柱穴	11×6
753	L-21	41	38	30	柱穴	17	871	F-17	29	19	22	柱穴	9×7
755	L-21	50	37	24	柱穴	15×11	873	F-17	28	30	28	柱穴	14×11
765	K-22	64	55	38	柱穴	23×20	874	F-17	45	43	60	柱穴	9
768	K-22	35	25	23	柱穴	10×8	875	F-17	26	21	27	根跡	7×5
774	K-21	-	-	-	削石遺構		879	F-17	63	31	54	柱穴	15
780	J-21	32	25	28	柱穴	11×7	880	F-18	24	23	16	柱穴	9
782	J-21	23	19	30	柱穴	5×4	885	F-18	44	40	28	柱穴	12×9
784	J-21	23	20	20	柱穴	12×7	886	F-18	25	25	15	柱穴	12
785	I-21	26	22	34	柱穴	8	887	F-18	50	28	50	柱穴	15×10
786	I-21	28	22	34	柱穴	11	888	F-18	45	36	32	柱穴	16×10
787	I-21	29	27	24	柱穴	10	890	F-19	35	32	26	柱穴	20×13
790	I-21	23	22	21	柱穴	12×9	891	E-16	37	27	25	柱穴	14
791	I-21	26	24	24	柱穴	14×12	896	E-16	22	20	22	柱穴	8
793	H-21	28	23	24	柱穴	16×10	897	E-16	30	30	33	根跡	14×10
794	H-21	31	25	26	柱穴	13×11	899	E-17	27	24	17	柱穴	9
796	H-21	35	27	19	柱穴	23×14	909	M-18	30	30	22	柱穴	7
797	H-21	34	27	31	柱穴	13×12	912	M-19	46	43	23	柱穴	16×13
809	G-16	31	25	31	根跡	18×6	916	M-19	34	20	20	根跡	13×7
810	G-16	32	24	26	柱穴	12×10	917	M-19	35	29	36	柱穴	17×14
812	G-16	33	26	22	柱穴	10×7	918	N-20	43	44	36	柱穴	12
813	G-16	26	22	16	柱穴	15×10	927	M-9	45	35	55	柱穴	13
814	G-16	36	26	20	柱穴	12×7	928	L-9	60	40	68	柱穴	11
817北	G-16	19	17	19	根跡	11×10	931	O-14	26	29	27	柱穴	18
817南	G-16	20	20	19	根跡	10×9	932	I-12				削石遺構	
819	G-16	33	24	54	柱穴	10×8	933	I-12				削石遺構	
822	G-16	37	30	25	柱穴	14×10	934	H-12				削石遺構	
823	G-17	36	24	30	根跡	13×8	935	H-13				削石遺構	
825	G-17	30	28	30	柱穴	9×7	936	-	47	40	63	柱穴	12×10
827	G-17	35	29	27	柱穴	12	937	-	50	38	48	柱穴	10
830	G-17	32	24	41	根跡	11×7							
831	G-18	32	24	41	柱穴	10							
832	G-18	55	29	77	柱穴	12×9							
834	G-18	47	35	30	柱穴	15×10							
839	G-18	34	25	30	-	14×9							
845	G-19	34	32	39	柱穴	19×17							

## 第4節 遺物

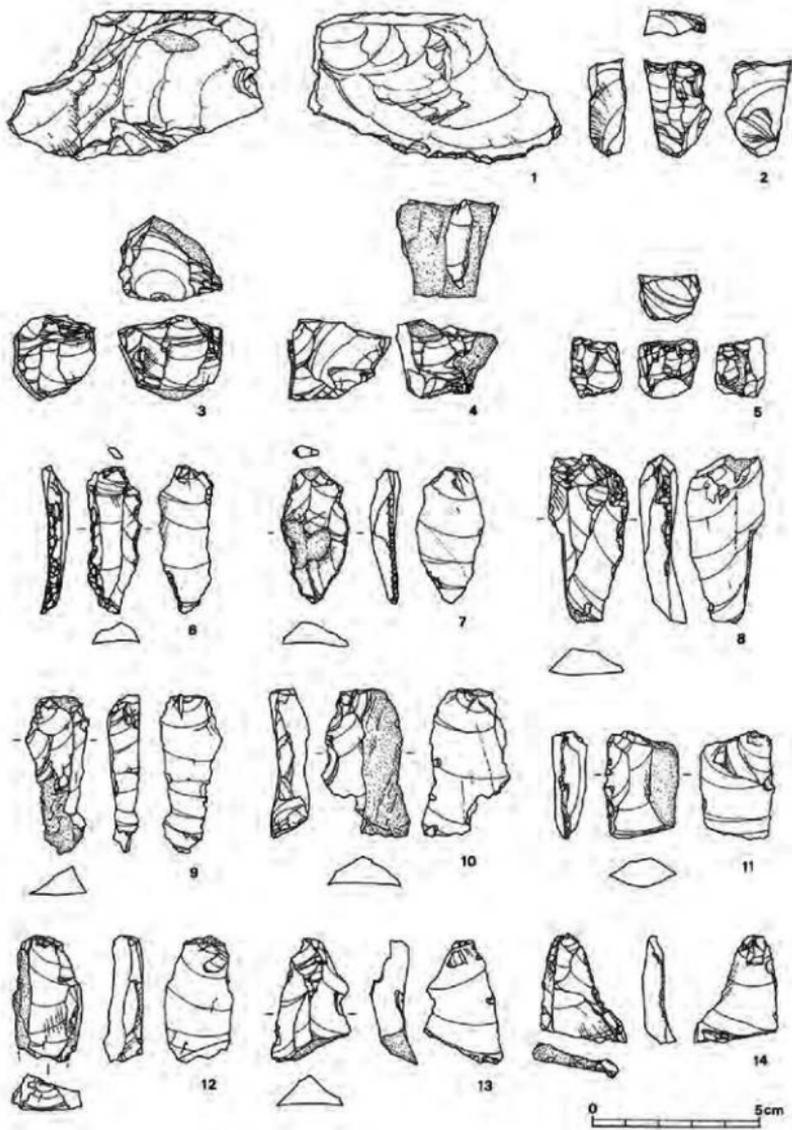
### (1) 石器 (27~29回)

土器からみれば、後期末から晩期中葉に納まるかなり時期幅が狭い間に形成された遺跡として捉えられている。このことから、石器についてもその時期のものとして大過ないであろう。出土した石器の組成の大きな特徴は、狩猟具が皆無であるということである。調査面積的にかなり広範囲を調査したにもかかわらず、石鏃の破片さえ検出できなかったことは、この遺跡の性格を反映していると思われる。狩猟具の出土が皆無であるのに反し、扁平打製石斧(第28回-15・18・19・20)、石廔丁形石器(第28回-16・21)・砥石(第29回-27・28)・スクレイパー類(第27回-1・6~14)が出土している。扁平打製石斧は、安山岩製のもので島原半島の縄文晩期の遺跡で多く見られるものと石材的にも共通している。扁平打製石斧の調整は周辺加工に止まるものが多いのが特徴的である。扁平打製石斧と石廔丁形石器については、扁平打製石斧と判断するか石廔丁形石器とするか判断に苦しむが、結晶片岩を素材とする薄身のものについては、斧あるいは土掘り具とするよりも石廔丁形石器として捉えたほうが、素材の質から機能を考えた場合、より具体性を持つものと思われる。磨石は大形のもので2点出土しており、(第29回-24)についてはその磨れたから、ロッキングさせるような動きが想定される。破片ではあるが砂岩製の石皿も1点出土しており、U字状に磨り減っている。スクレイパーについては、安山岩製の剥片の末端を刃部とするものが1点出土しているが、他はすべて黒曜石製のものである。この黒曜石製のものについては、刃部加工が顕著なものは1、2点であとのものについては、刃部に使用痕が残る程度のものである。刃部を形成するものや、使用痕のあるものは、縦長剥片を使用しているが、自然面を残すケースが多く、(第27回-3~5)のような晩期特有の小型石核から剥離されたものと考えられる。

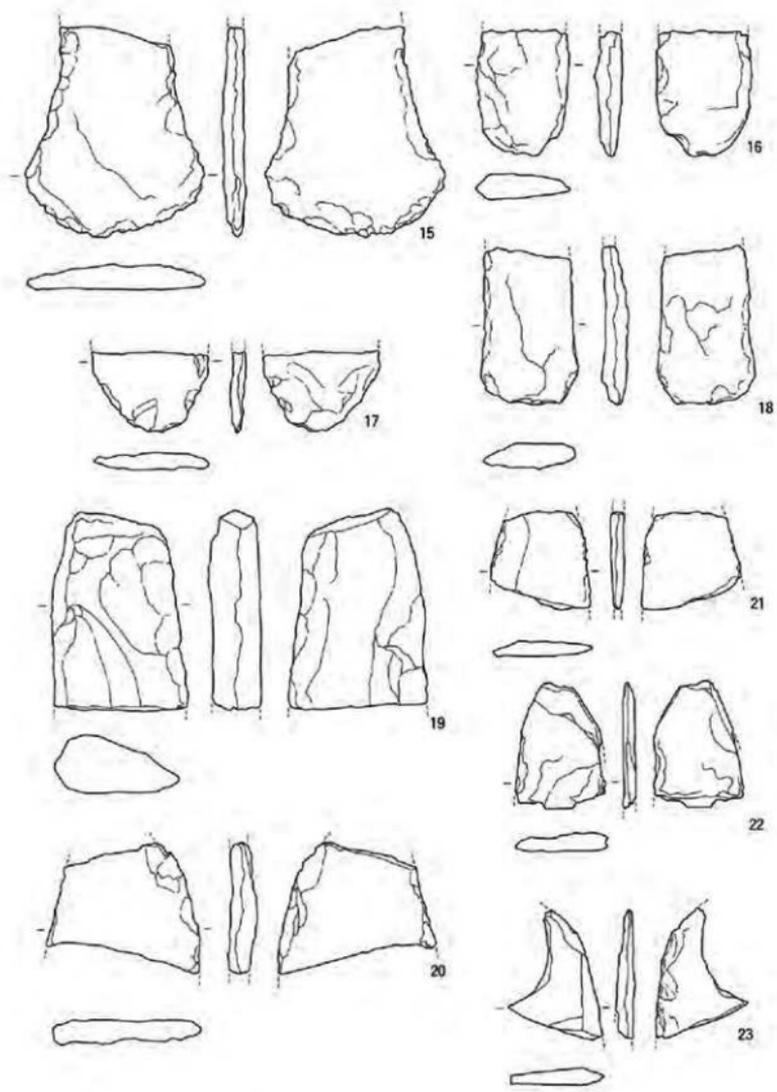
以上、出土石器について簡単に説明したが、狩猟具を持たないなどの石器組成から見れば、極めて原初的農耕の色彩が強い遺跡であると考えられる。島原半島の標高200mのラインは、縄文晩期遺跡が比較的多い地域と言われている。実際、標高200mラインに集中する遺跡は、晩期のものが多いことについては久原巻二の論考にも見える(久原1994)。ただし、山の寺尾木遺跡など数遺跡を除く多くの遺跡については、比較的小規模な遺跡が多いように見受けられることから、定住地から山での原初的な農耕を目的とするための一時的な遺跡が多いものと思われる。本遺跡もまたその例であろう。

### (2) 鉄製品 (第29回-30)

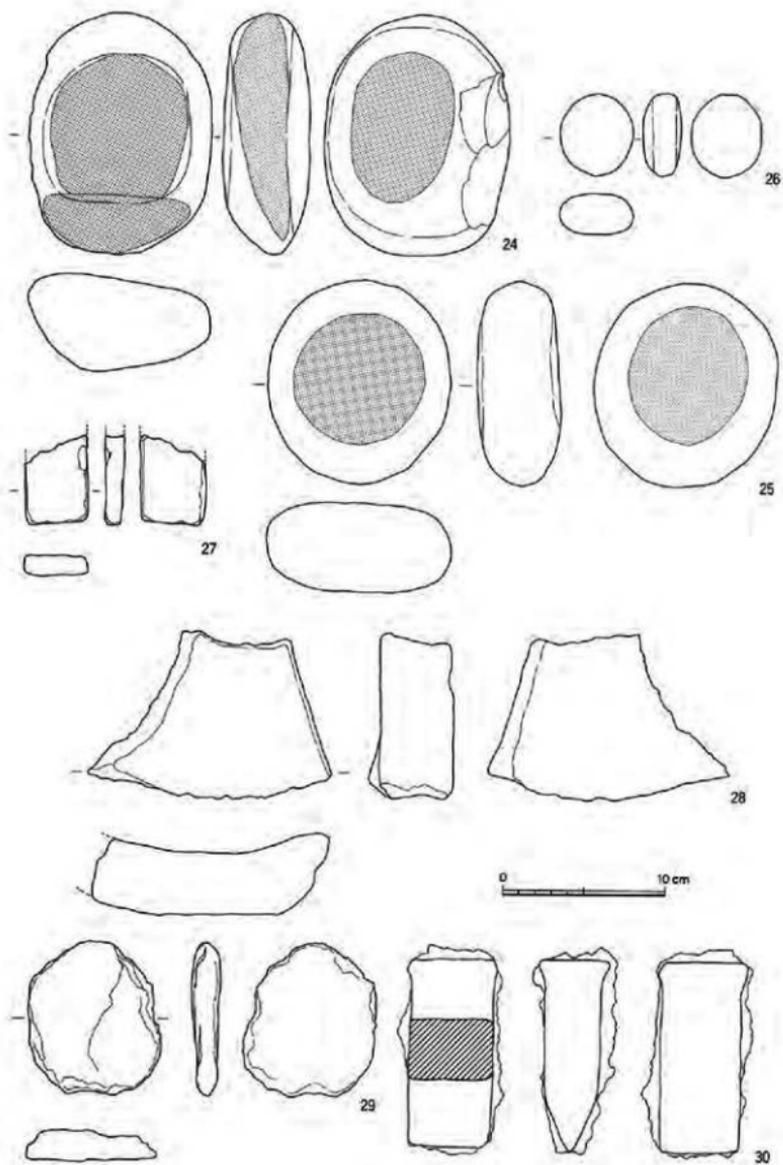
531号遺構から鉄製の矢ガネが出土した。全体的に錆に覆われているが、重厚で全長12cm、厚さ3.5cmを測る。付近の割石遺構の石に残された矢の痕跡は、この矢ガネの刃部に合致するものがあり、この矢ガネによって割石がおこなわれたであろう。



第27图 剥片石器实测图 (S=2/3)



第28图 礫石器実測图① (S=1/3)



第29图 砾石器实例图②，铁制品实例图 (S=1/3)

### (3) 土器 (第30～32図)

#### ①縄文時代早期の土器 (1～4)

いずれも精円文が小粒で精緻なところから、古いタイプの押型文土器と思われる。

#### ②縄文時代後期終末の土器 (5～13)

5の深鉢形土器にみられるように、山形の口縁をもつ点や、口縁文様帯が凹線で、沈線化していないことや、山形の頂下にみられる凹点の存在、また研磨が丁寧である点などから、御領式土器と判断した。

#### ③縄文時代晩期前葉の土器 (14, 40, 45, 47, 49～56)

14の深鉢形土器は肥後地方の編年でいえば、古閑式とよばれる型式に含まれる資料である。島原半島では島原市畑中遺跡で良好な資料が出土している(村川編 1994)。47, 49～46の浅鉢形土器も頸部が伸びて口縁端を玉縁状につくりだす口縁部の形態からみて、この時期に属するとみられる。40の内弯口縁の鉢形土器も口縁部外面の文様を滋賀里系の重弧文の影響とみれば、この時期のものとすることができよう。さらに断片であるが45の文様もそのように理解すると同時期に含められる。

#### ④縄文時代晩期中葉の土器 (15～39, 41～44, 46, 48)

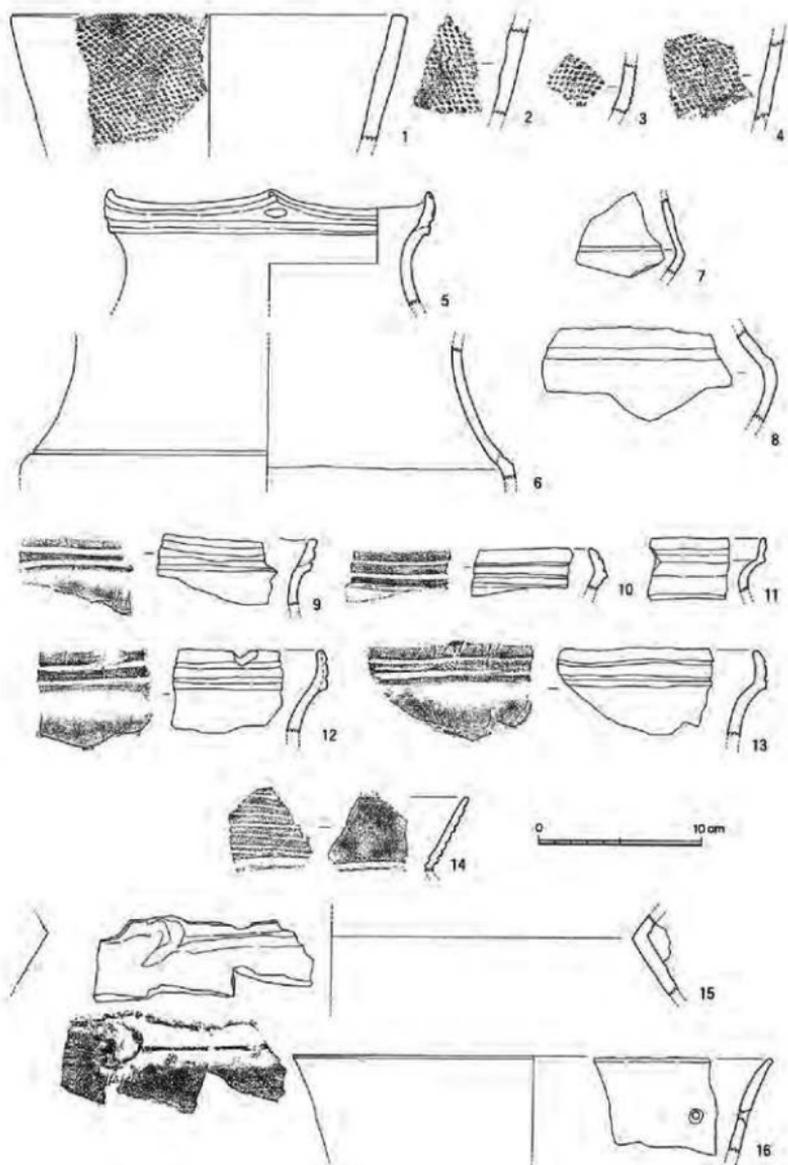
九州では黒川式とよばれる型式に属する一群である。15のようにリボン状の突起や、44のように鱗状の突起をもつような資料に代表される。46はボタン状の貼付文に刻目を施す資料で、島原市礫石原遺跡に類似資料がみられる。弥生早期の刻目突帯文土器に先行する土器と理解される。その他の資料は調整に貝殻条痕を用い、直口縁の資料ということで当該期に含めた。48は組織痕文土器である。

#### ⑤土器小結

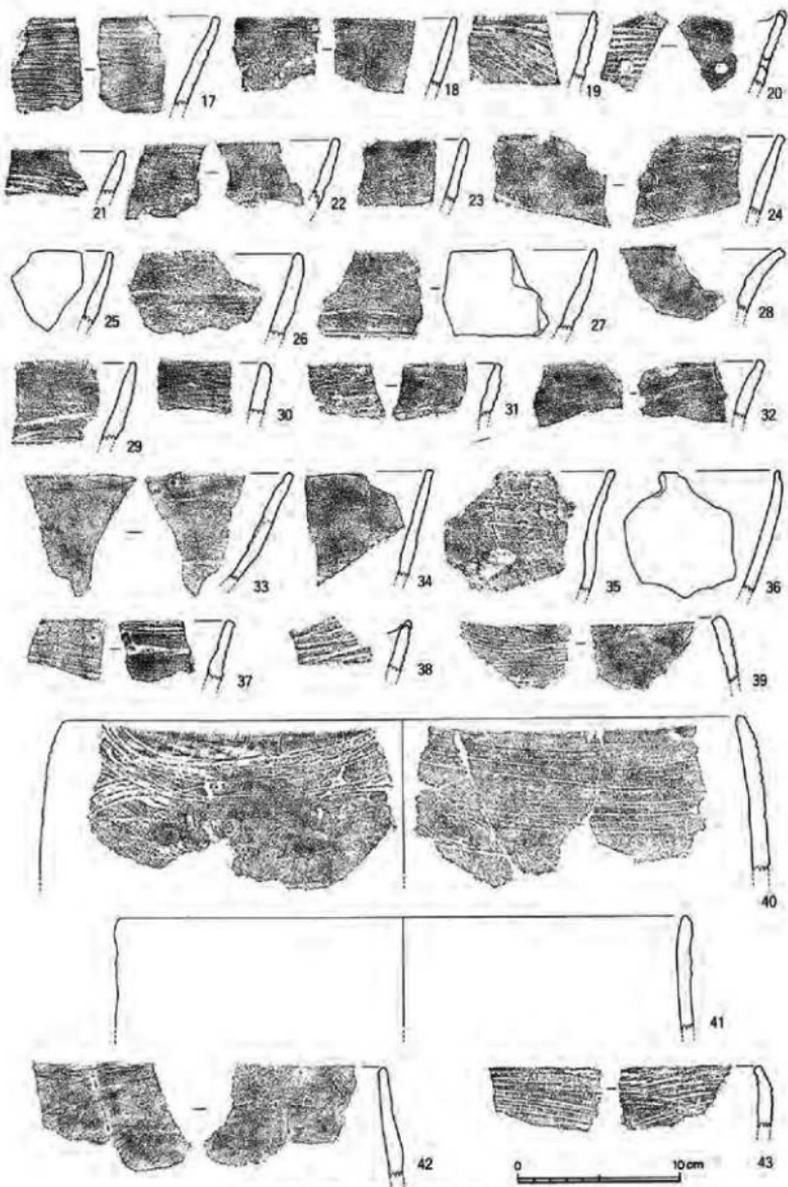
島原半島では近年、御領式土器に後続する土器群の検討はあるものの(古門 1995, 永嶋 1998)、御領式土器の検討はない。高標高域の遺跡で御領式土器の出土に恵まれなかったからである。後遺跡や小原下遺跡など後期後半の遺跡は海岸に隣接した段丘や低地の微高地を中心に立地することが知られている(宮崎 1990)。高標高域の百花台遺跡や礫石原遺跡でも少量の西平式土器が採集されているらしく、宮崎貴夫は「低位にある集落の野营地」と評価した。本遺跡の御領式土器については高標高域での出土という点に意義をみだしておきたい。

#### 【引用・参考文献】

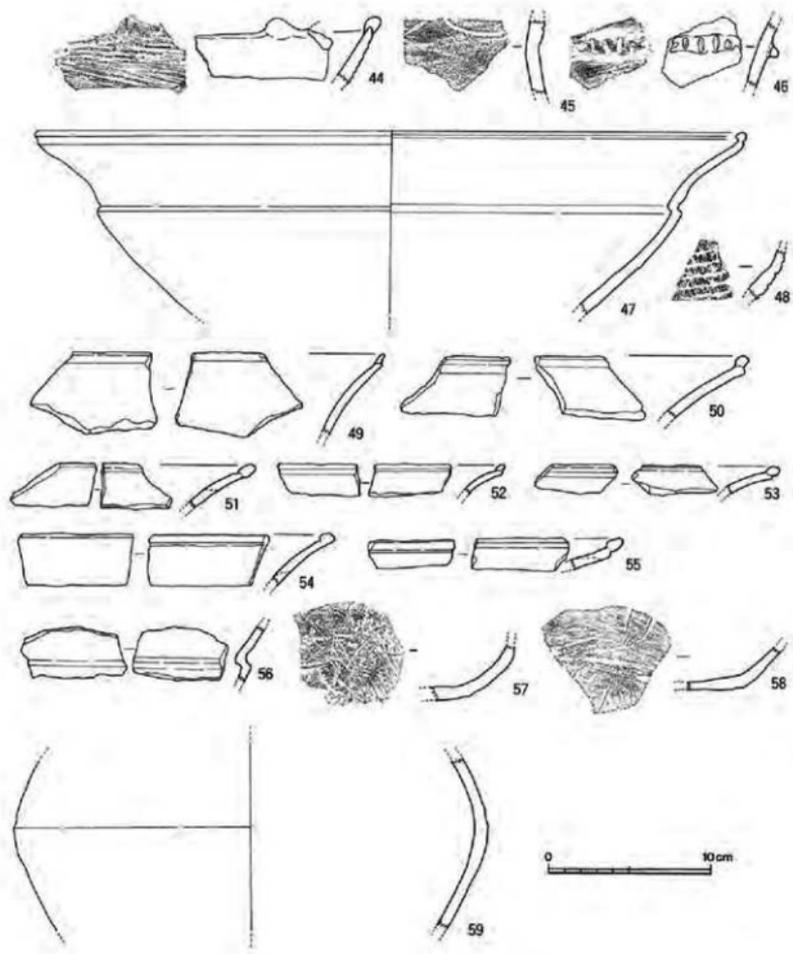
- 永嶋 豊 1998 「島原半島における縄文時代後期終末～晩期初頭の土器研究」『陣の内遺跡』瑞穂町文化財調査報告書第3集 瑞穂町教育委員会
- 古門雅高編 1995 『国崎遺跡Ⅱ』南串山町文化財調査報告書第3集 南串山町教育委員会
- 宮崎貴夫 1990 「まとめにかえて～縄文後期から弥生前期における遺跡の動向～」『長崎県文化財調査報告書』長崎県文化財調査報告書第97集
- 村川逸朗編 1994 『畑中遺跡』島原市埋蔵文化財調査報告書第9集 島原市教育委員会



第30圖 縄文土器実測図① (S=1/3)



第31圖 縄文土器実測図② (S=1/3)



第32図 縄文土器実測図③ (S=1/3)

#### (4) 自然科学分析

##### ①分析の目的

本遺跡の遺物包含層である第2層は縄文晩期の土器を出土するため堆積時期は特定できていたが、その下層である第4層に関しては、時期の特定はできていなかった。しかしながら調査中に長崎大学教育学部の長岡信治先生より同層は六ツ木火砕流による堆積物という教示がえられたので、島原半島における六ツ木火砕流の堆積年代のひとつのデータを得るために年代測定をおこなうことにした。

##### ②分析の方法

試料には第4層中に包含された炭化物を用いた。分析は古環境研究所に依頼した。

##### ③分析の結果

分析の結果、別表に示すとおり第4層から検出された炭化物の放射性炭素年代値は $4150 \pm 50\text{BP}$ であった。

##### ④小 結

六ツ木火砕流の噴出年代は4千年前とされており(渡辺・星住1995)、今回の分析結果はこれまでの値と矛盾しない。最近では島原市稗田原遺跡で六ツ木火砕流中の炭化木片の放射性炭素年代測定がおこなわれているが、その結果によると $3620 \pm 60\text{BP}$ ということで、従来の値より300~400年ほど新しい数値がでている(長岡・田島1998)。

六ツ木火砕流の噴出年代については今後の分析によって精度は高くなっていくと予想されるが、問題は六ツ木火砕流の噴出による人文系への影響をどのようなものだったのかという問題がある。

4千年前という時期は最新の年代測定の研究によると縄文中期末である。この時期の島原半島における考古学的事象と重ね合わせることによって、六ツ木火砕流が当時の島原半島の人文系に及ぼした影響が推定されるであろう。

#### 【引用・参考文献】

- 長岡信治・田島俊彦 1998「雲仙火山北麓の稗田原遺跡のテフラ層序」『稗田原遺跡Ⅱ』長崎県文化財調査報告書 第145集 長崎県教育委員会
- 渡辺一徳・星住英夫 1995「雲仙火山地質図」通商産業省工業技術院

# 有明町，東鷹野遺跡における放射性炭素年代測定

株式会社 古環境研究所

## 1. 試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No 1	OP-3, IV層	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, ベンゼン合成	標準測定法 (時間延長)

## 2. 測定結果

試料名	$^{14}\text{C}$ 年代 (年BP)	$\sigma$ $^{14}\text{C}$ (%)	補正 $^{14}\text{C}$ 年代 (年BP)	暦年代 (西暦)	測定No (Beta-)
No 1	4170 $\pm$ 50	-26.3	4150 $\pm$ 50	交点: cal B C 2860, 2810, 2690 1 $\sigma$ : cal B C 2870~2620 2 $\sigma$ : cal B C 2890~2580	151364

### 1) $^{14}\text{C}$ 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から，単純に現在 (1950年AD) から何年前かを計算した値。 $^{14}\text{C}$ の半減期は，国際慣例に従って5,568年を用いた。

### 2) $\sigma$ $^{14}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ )。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。

### 3) 補正 $^{14}\text{C}$ 年代値

$\sigma$  $^{14}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り， $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

### 4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 $^{14}\text{C}$ 濃度の変動を校正することにより算出した年代 (西暦)。校正には，年代既知の樹木年輪の $^{14}\text{C}$ の詳細な測定値，およびサンゴのU-Th年代と $^{14}\text{C}$ 年代の比較により作成された校正曲線を使用した。最新のデータベース ("*INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration*" Stuiver et al, 1998, *Radiocarbon* 40 (3)) により，約19,000年BPまでの換算が可能となっている。

暦年代の交点とは，補正 $^{14}\text{C}$ 年代値と暦年代校正曲線との交点の暦年代値を意味する。1  $\sigma$  (68% 確率) 2  $\sigma$  (95% 確率) は，補正 $^{14}\text{C}$ 年代値の偏差の幅を校正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって，複数の交点が表記される場合や，複数の1  $\sigma$ ・2  $\sigma$ 値が表記される場合もある。

## 第Ⅵ章 ま と め

### 第1節 縄文晩期前半の東鷹野遺跡について

東鷹野遺跡では一部に縄文早期の押型土器が出土しているが、縄文時代の主体は晩期前半の土器である。注目されるのは刻目突帯文土器を含まないことで、このことは、同じように標高200m付近に立地する礫石原遺跡や肥賀太郎遺跡と同じ傾向である。なぜこの時期の高原半島の遺跡が標高の高い地域に分布するのか、以前から問題視されながら、考古学からは、いまだ明快な回答を見いだせていない。

さらに注目されるのは、東鷹野遺跡の立地である。遺跡の東西には丘陵がそびえ、これらに挟まれた谷に立地する。微高地があるとはいいながら、近くを流れる湯江川の影響は無視できない。したがって定住的な遺跡とは考えにくく、この場がなにか機能や目的をもって当時の人々に利用されていたと考えられる。出土した土器は摩滅をうけていないため、流れ込みではなく、当地で使用されたものであり、器壁に炭化物が付着しているものが多数みられることから、なんらかの作業がおこなわれていたと想像できる。石器では狩猟具である石鏃が1点も出土しなかったことは示唆的である。石器の中心は扁平打製石斧や磨石、礫石などで、これらの器種構成からみれば、半栽培的な生業活動を想起せざるをえない。検出された多数のピットには柱穴もあるが、樹木根跡とみられるものも多い。当時の環境を推定するうえで参考となろう。

### 第2節 近世以降の割石廃棄土坑について

今回は多くの割石廃棄土坑を検出した。県内でもこの種の遺構の存在は認識されていたが、調査報告例はない。地域における耕地開拓の歴史や、耕作地整備の歴史を考えるうえで貴重な記録であろう。とくに東鷹野遺跡でみれば、石塊を破砕するだけでなく、割石を大きさによって選別し、埋設ともいうべき行為をおこなっていることに注目したい。このような行為は石垣を構築する際の部材としてのストックとも考えられる。割石廃棄土坑が、黒ボクによって被覆されているのも、将来の石材利用を考えてのことであろうか。

また実際の割石作業に使用された「矢ガネ」の出土や、「矢穴」が残る石塊などが検出されたことも有意義であった。

### 第3節 六ツ木火砕流の実年代について

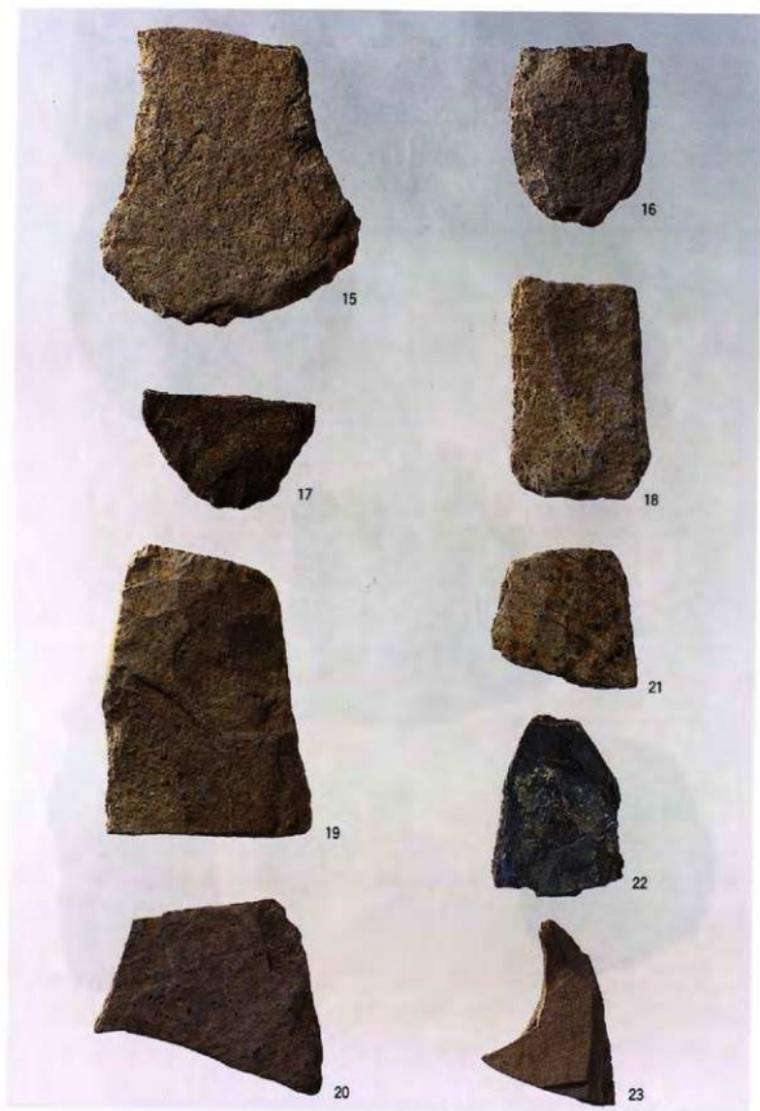
今回、第4層の六ツ木火砕流に具体的な実年代値をデータとして加えることができた。今回はAMS法を用いてはいないので単純に比較はできないのかもしれないが、補正值で4150±50BPという年代は、佐賀県平原遺跡の並木式土器から採取された試料の4150±100BPに近い(高瀬・徳永1994)。この時期の高原半島の人文界に火砕流が与えた影響を検討することが今後の課題であろう。なおこの報告にあたっては渡邊康行氏との検討によるところが多い。

#### 【引用文献】

高瀬哲郎・徳永貞紹 1994 「九州地方の縄紋中期土器編年と14C年代」

圖 版





图版22 燧石器①



图版23 碾石器②，铁制品



图版24 土器①



圖版25 土器②



图版26 土器③



## 報告書抄録

ふりがな	ひがしたかのいせき							
書名	東鷹野遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	有明町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第13集							
編著者名	古門 雅高・福田 一志・渡辺 康行・宇土 靖之							
編集機関	有明町教育委員会							
所在地	〒859-1415 南高来郡有明町大三東戊1438番地1							
発行年月日	西暦2001年3月30日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
東鷹野遺跡	長崎県 南高来郡 有明町 字東鷹野	361	107	32° 48° 24°	130° 18° 49°	2000年 5月8日 / 5月12日 2000年 7月17日 / 10月12日	3,600㎡	砂防ダム 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
東鷹野遺跡	包含地	縄文 近世近代	割石廃棄土坑 土坑 ピット	縄文土器・石器				

有明町文化財調査報告書 第13集

061 たか の  
東 鷹 野 遺 跡

2001年 3月30日

発 行 有明町教育委員会  
長崎県南高来郡有明町大三東戊1438-1  
T E L 0957-68-1101

発 行 株式会社 昭 和 堂  
長崎県諫早市長野町1007-2  
T E L 0957-22-6000





